

平成17年第4回野洲市議会臨時会会議録

招集年月日

平成17年8月1日

招集 場所

野洲市役所議場

応招 議員

1 番 藤村 洋二	2 番 木村 定八
3 番 太田 秀司	4 番 津田 實
5 番 田中 良隆	6 番 梶山 幾世
7 番 三和 郁子	8 番 田中 弘一
9 番 藤下 茂昭	10 番 中島 一雄
11 番 田中 博	12 番 田中 孝嗣
13 番 中田 幸子	14 番 小島 進
15 番 原田 薫	16 番 竹内 孝治
17 番 辻 藤雄	18 番 森田 貞雄
19 番 森 申行	20 番 野洲 健造
21 番 田中榮太郎	22 番 林 克
23 番 田中 敏雄	24 番 荒川 泰宏
25 番 河野 司	26 番 鈴木 市朗
27 番 山本 勇作	28 番 川口 東洋
29 番 野並 享子	30 番 小菅 六雄
31 番 長谷川龍一	32 番 秦 眞治

不応招議員

なし

出席 議員

応招議員に同じ

欠席 議員

なし

地方自治法第121条の規定により説明のため出席を求めた者の職氏名

市 長	山崎甚右衛門	助 役	川尻 良治
収 入 役	阪口 和夫	教 育 長	大堀 義治
政策推進部長	山中 重樹	総 務 部 長	山中 清嗣
市民健康福祉 部 長	竹澤 良子	都市建設部長	北口 守
環境経済部長	米澤 博	教 育 部 長	島村 平治
監 査 委 員 事 務 局 長	坂口 哲哉	政 策 推 進 部 次 長	東郷 達雄

総務部次長	前田	健司	総務部次長	田中	正二
市民健康福祉部 次長	高田	一巳	都市建設部 総括マネージャー	堤	文男
環境経済部 総括マネージャー	佐橋	市衛	広報秘書課長	富田	久和
総務課長	竹内	睦夫	企画財政課長	中島	宗七

出席した事務局職員の氏名

事務局長	内堀	悟	事務局次長	井狩	重則
書記	川崎	和美	書記	赤坂	悦男

議事日程

第1 会議録署名議員の指名について

第2 会期の決定について

第3 議第78号

(平成17年度野洲市一般会計補正予算(第2号)について)

提案理由説明、質疑、討論、採決

開議 午前9時00分

議事の経過

(開会)

議長(秦 眞治君) (午前9時00分) 皆さん、おはようございます。

それでは、ただいまから平成17年第4回野洲市議会臨時会を開会いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

日程に先立ち、諸般の報告をいたします。

出席議員32名全員であります。

次に、本臨時会に説明員として出席通知のあった者の職氏名は、お手元に配付しておりますのでご了承願います。

次に、本日の議事日程はお手元に配付しております議事日程表のとおりであります。

これより日程に入ります。

(日程第1)

議長(秦 眞治君) 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は会議規則120条の規定により、第6番、梶山幾世君、第7番、三和郁子君を指名いたします。

(日程第2)

議長（秦 眞治君） 日程第2、会期の決定を議題といたします。

お諮りいたします。

本臨時会の会期は本日1日間といたしたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（秦 眞治君） ご異議なしと認めます。よって、本臨時会の会期は本日1日間と決定いたしました。

次に、地方自治法第149条第1号の規定により、市長より本臨時会に提出されました議案は、配付いたしております議案書のとおりであります。

（日程第3）

議長（秦 眞治君） 日程第3、議第78号平成17年度野洲市一般会計補正予算（第2号）を議題といたします。

市長の提案説明を求めます。

市長。

市長（山崎甚右衛門君） 皆さん、おはようございます。

本日、ここに平成17年第4回の野洲市議会臨時会を招集いたしましたところ、議員の皆さんには多数ご出席を賜り、厚く御礼を申し上げます。

本臨時会におきましては、平成17年度補正予算1件についてご審議をいただくものでございますので、よろしく願いいたします。

それでは、議第78号平成17年度野洲市一般会計補正予算（第2号）についてご説明を申し上げます。

議案書の4ページをご覧いただきたいと思います。今回の補正は、債務負担行為について追加を行うものであります。

5ページの第1表をご覧下さい。東海道新幹線新駅設置工事促進事業費負担金として、平成17年度から平成24年度までの間で2億6,900万円の債務負担行為を起こすものです。なお、平成17年度は工事協定締結のみで、負担金の支出は18年度からとなっております。これはJR東海との基本協定書において県、栗東市及び関係市による費用負担調整の終了とJR東海への通知が工事協定締結の条件の一つとされており、平成24年度末までの後年度負担を伴う協定の結果に際し、債務負担行為の議決が必要となるものであります。

栗東市におきましては既に去る6月24日に、県、甲賀市、草津市、守山市でも今日ま

で債務負担行為が可決されているところであります。湖南省につきましても8月5日に議会が開催の予定と承っております。野洲市におきましても、先の新駅設置促進協議会で確認されました、新幹線新駅は県南部地域並びに県の将来のために不可欠であるとの共通認識のもと、構成団体は設置促進に向けて努力すること、並びに工事負担について合意すること、この2点の確認事項に基づきまして本件の債務負担行為の追加のための補正予算を提案させていただいたものでございます。どうぞよろしくご審議をいただきますようお願い申し上げます。提案理由の説明とさせていただきます。

議長（秦 眞治君） 暫時休憩いたします。

（午前 9時05分 休憩）

（午前10時14分 再開）

議長（秦 眞治君） それでは休憩前に引き続き会議を開きます。

これより議第78号に対する質疑を行います。

議案質疑通告書が提出されておりますので、これを許します。

まず、第7番、三和郁子君。

7番（三和郁子君） 議第78号平成17年度野洲市一般会計補正予算、東海道新幹線新駅設置工事促進事業費負担金に関し質問をいたします。

さて、東海道新幹線新駅の設置事案につきましては、県費負担117億円が7月26日県議会本会議で可決、また促進協議会の関係市においても負担金の議会採択が進みつつあります。この案件に関し、逼迫している野洲市の財政状況あるいは新駅設置による野洲市への貢献度が疑問視される新駅設置事業そのものに私は反対の考えを持っております。

しかし、県あるいは関係周辺市においても負担金の議会採択も進みつつあり、新駅設置事業は既定化されつつあります。新駅設置事業は野洲市にとっても少ないとはいえ、その恩恵にあずかるのも事実であり、正当かつ妥当な額において設置費の応分の負担はやむなしとも考えます。しかし、県が示す2億6,900万円の100%の負担金が補正予算として今議会に提案されています。この2億6,900万円の負担金について、野洲市独自の正当性・妥当性について、どれだけ検証されたのでしょうか。また、その説明責任は果たされているのでしょうか。また、先ほどの全協で、一般会計の財源から負担、10年の返済で3%利率とのことについても市民にまだ説明が果たされておりませんし、初めて聞かされたことでもあります。

市民の目線からすれば、残念ながら否と評価せざるを得ないものと言えます。栗東市市

議会では、この事業に対する賛否は拮抗し、民意はどちらに傾いていたのか判断が難しい状況であったと言えるのではないのでしょうか。マスメディアを通じて60%強が不要と、住民アンケートの中間まとめが出ておりました。また、甲賀市は県の示す負担額を独自の検証により1億7,500万円の減額を要求し、大津市を除く関係市町及び県の合意を得、7月28日、4億2,500万円から減額した2億5,000万円の補正予算を議会で可決したことは周知のとおりであります。

このような背景にある中、伺います。第1点、負担金の正当性・妥当性について野洲市の検証結果及びその判断根拠を資料提示の上、説明を求めます。

第2点、甲賀市の負担金の減額が6月2日の駅設置促進協議会の会議席上で認められたと承知しております。甲賀市の減額要求の根拠及び正当性・妥当性について詳細な資料提示の上、説明をお願いいたします。特に、駅設置促進協議会の会議に出席されております山崎市長は甲賀市の減額要求に正当性・妥当性の根拠を認め、山崎市長をはじめ促進協議会もそれに応じたと判断しております。先の全協ですが、促進協議会では知らないとの市長の説明がございましたが、ならば各紙が間違っていたのか、報道したのかをあわせて伺います。この減額が認められたことに対する市民の関心は極めて高いものがあり、情報公開の観点、市民の知る権利、知らされる権利の観点から、行政は市民に対し明確な説明をすることによりその責任が果たされるものと認識願いたいものです。

以上、3点お伺いいたします。

議長（秦 眞治君） 市長。

市長（山崎甚右衛門君） ただいまご質問がございました。2点というふうに受けとめておったのですが、今3点とおっしゃったのですが、その辺を含めてお答えをしますが、まず1点目の正当性・妥当性について資料提示の上説明すると。これは総務部長の方でそれなりの説明をいたさせますが、どうも先ほどから出ていますように、甲賀市が減額要求をしたことについてみんなが認めたじゃないかと、こういうようなご議論のようでございますが、各紙が報道したということは、各紙が報道されたのじゃなしに、中嶋市長が発表されたのでそれが新聞に出たと、こういうことなのですが、我々は決してそれを認めたとか協議したということは一切ございません。守山市長さんも新聞に出しておかれるのですが、「引き続き甲賀市には県が示した負担額を求めていくべきだと考える」。私もそう感じておりますので、それをその協議会で認めたということは一切ございませんので、それは甲賀市の事情によってなされたこととさせていただきますから、最後はやっぱりそれなりのつじつ

まを合わせていただけることを期待いたしております。

以上でございます。

議長（秦 眞治君） 総務部長。

総務部長（山中清嗣君） 三和議員の負担金の正当性・妥当性についてのご質問にお答えさせていただきます。

今回の議会で新幹線新駅についての資料ということで、この3ページに東海道新幹線新駅設置工事費の地元費用負担調整の合意内容ということで、先ほど議員がございました6月2日の調整会議におきまして合意されております。

まず、負担でございますけども、概略設計額の240億から栗東市の都市計画道路6億700万円を引きました残りの233億9,300万円が一応協議会の中で議論されました。この233億9,300万円のうち駅舎分が132億3,500万円、そして特殊要因といたしまして、それ以外の部分でございますけども、それが101億5,800万円。この特殊要因については滋賀県と栗東市がそれぞれ半分ずつ負担をすると。関係市町に負担を求められましたのは、駅舎の分の132億3,500万円のうち県が2分の1を負担し、また栗東市が寄附金を含めまして3分の1を負担する、関係市町が6分の1を負担するという合意が成立しております。

そして議員の、私ども野洲市に求められました2億6,900万円の負担金の正当性・妥当性でございますが、この中で合意されたのが、一つは先進地事例で用いられた指標を参考にすること、そして負担受益のあり方を明確にすることを目的に、協議会において利用者需要予測調査を実施いたしました。この指標を採用するということが一つ決められております。そして、この利用需要予測の中で、ビジネス、観光、通勤、通学の区分が見込まれますが、将来の利用可能性は人口規模に大きな影響を受けることや、新駅は幅広い効果を地域に及ぼすということ、その受益は人口に応じて受ける面が高いことから、2点目として、人口割合を高目として利用者需要予測と、人口の割合を負担指標の全体の6割以上として均等割、隣接割、財政力割で4割以下の割合とするという合意、この2点が基本的に合意ではじかれております。

そして、具体的に使われました指標といたしましては、先ほども申しました利用者需要予測、深度化調査の結果の数値を使用する。そして人口については平成16年12月1日時点の人口推計数値を使用しております。そして距離割は各市庁舎の位置から新駅までの道路距離を二乗した逆数でいくと。そして財政力割合は標準財政規模、平成16年度数値

でございますけども、財力に財政力指標を、平成14年から16年度の平均値でございます、これを掛けて求める。なお、大津市の場合は人口、標準財政規模については実際の大津市の数値に4分の1の調整値を掛けるということで根拠になっております。この根拠に基づきまして、それぞれ各市町の割合が提示されました。本市としては一応、さまざまな議論はあるわけでございますけども、妥当であると判断しております。

以上、お答えとさせていただきます。

議長（秦 眞治君） 三和郁子君。

7番（三和郁子君） 3点なのですが、それはまた再質問の中に入れさせていただきますので、十分な説明をお願いいたします。

今説明がありました、私、資料提示していただきたいということで今お願いしていましたが、それは後で出していきたいと思います。

今の負担金の指標の5項目によりますと、利用者割が20%で、人口割が40%、この2項目、これ、全体の60%。で、均等割20%を除きますと、他の距離割、財政力割を加えた4つの変動要素の合計が80%のうち60%、すなわち変動要素の実に75%がこの人口割と利用者割の二要素の指数で、負担金額が多少左右されるというふうに今の5項目の詳しい説明の中で思いましたが、この2つの要素、この促進協議会の以前いただきました深度化調査の資料を参考に、私、数値検証をいたしました。その数値検証をいたしましたら、利用者割のファクターの新駅利用者数は野洲市の1.83倍、利用率が甲賀市が80%、野洲市が42%、人口割のファクターの人口比はおおむね野洲市の1.9%、おおよそこういうふうになるかと思います。そういう中で、大津市の3億、野洲市の2億6,900、そして甲賀市が4億2,500万円から2億5,000万を差し引いた1億7,500万円のこの金額、これがまだ今明確にされていないのです。

その中で、今私たちこの野洲市の財政の中から、この大事な税の負担を今決めるわけには、私はいかない。減額後の負担額の2億5,000万円の甲賀市を上回る野洲市の負担額が2億6,900万円という、甲賀市よりも大きな負担額、人口割でいきますと甲賀市が約10万人で野洲市が約5万人。にもかかわらず、甲賀市の方が負担金額が、今この5項目を出されましたけども、非常に違ってきているということについて、市長は促進協議会でどのような話をされているのか。

こういう観点から、私は野洲市独自の切り口による負担額の精査を行えば、必ず減額の根拠を発見することができると思うのです。このまま県から言われた2億6,900万円

をそのまま進めるのではなくて、行政はせめて甲賀市並みのリーダーシップを発揮してほしいと常に私は思っておりますが、今回も市長のリーダーシップを私は市民の目線と受けとめて、多額のこれは税の支出になります。減額について見直しすることが市政を預かる市長の責務でもあろうかと思っておりますので、もう一度市長のお考えをお伺いいたします。

議長（秦 眞治君） 市長。

市長（山崎甚右衛門君） 先ほども申し上げましたとおり、甲賀市のことは甲賀市の中でお考えになって行動されておりますので、我々促進協議会では一切認めておりませんので、ご理解を基本的にいただきたいと思えます。リーダーシップをとって計算をやり直せということになりますと、甲賀市の方法でやれば野洲市はふえますよ。それだけ申し上げておきます。

議長（秦 眞治君） 説明責任。

市長（山崎甚右衛門君） 説明責任ということでございますが、若干これは話が長くなるのですが、私、選挙の際には負担金は出せないと、こう市民の皆さんに申し上げてきました、今の段階ではと。しかし、県が2分の1、栗東市が99億プラス10億あって、100億近い金を出すということがはっきりされました時点で、市民の皆さんには、私が出せないとやったのはこれなのですよ、だから県なり栗東がうまい前向きの指標を出された以上は、やっぱりこれは協力をしていかないといけないと。

だからおっしゃるように、それを主とした会議は持っておりません。住民の皆さんに、全部集まってくれと言った会議はございません。個々の会議ではそれなりの説明はさせていただいておりますし、県も促進協議会もいろんなところから機関紙を出してやっております。7月17日にも県の南部地域に配布をいたしましたね。それと、けさも県の広報が入ってございましたね。あれにも新幹線の内容が十分に書いております。だから、私は機会あるごとに市民の皆さんに説明を申し上げ、理解を得ておりますし、市長への手紙で、私は反対だという数人の方の手紙もいただいております。それには丁重な内容を含んでお答えを申し上げております。再びそのことについて同人から手紙をもらうことはございません。だから、その文書でご理解を得たと、このようにも解釈しておりますので、そういうことで、あらゆる機会に市民の皆さんにお話をしてきたと、そういうことでお答えとさせていただきます。

議長（秦 眞治君） 三和郁子君。

7番（三和郁子君） 必要性について、今、市民に対しての説明責任は、県あるいはい

ろいろな新聞や情報によって知らせているというような今の答弁でございますが、私は北野のコミセンの夏祭りとかに行き、無作為に出会った方にお尋ねしたのです。そうしたら、知らない人も多かったですね。それは100%市民に知らせるということは、これは非常に至難のわざかとは思いますが、けれどもこれは市民が納めている税金から出す多額なお金なのです。私自身、今日の議会に臨むにあたって、やはり他の市の方が皆さん可決してきておりますので、野洲市としてはどういうふうな、本当に進むべき道かということをやうべも一晩悩んだあげく、こういう今、質問をさせていただいております。

ただ、本当に説明責任はまだ果たせていないように思います。知らない人が多かったです。その中で、私はこれは栗東駅に直接設置するという、そういう勘違いしている人もおりました。だから、これは草津線に乗り替えて手原で、栗東駅の間にも新駅が設置され、そこから行くか、あるいは栗東駅からバスに乗って行くのか、あるいは車で新幹線栗東駅まで行くのか、いろいろな方法を市民の方に伝えました。そうしたら、ほとんどの方が、そういうことを知らない人の方が多かったです。まして、駐車場は2000台で、大体1,000円ですか、案が出ているという、そういうお話もお聞きしているのですが、そういうお話も、これはまだ決定ではないので、案だからということの中で説明を私はしてまいりました。

ですから、私はもっと市長に市長はかなりいろいろなところを歩いて、住民との懇談をされていることは私も重々承知しておりますけれども、もっと懇談会、字別までおっていて、そこで説明をすべきでなかったかというふうに思います。ですから、まだ十分な野洲市として説明ができていないということから、私は今回の議案質問をさせていただきました。

以上で質問を終わります。

議長（秦 眞治君） 次に、通告、第30番、小菅六雄君。

30番（小菅六雄君） 補正予算、新幹線の駅設置の債務負担を行うことについて質問を行います。

この問題は6月議会でも一般質問を行いました。私はもう言うまでもなく、野洲市をはじめ関係自治体が総額240億円を負担することの根拠は明確に破綻していると考えております。1点目は促進協議会や関係市が繰り返し主張してきました利用見込み、また経済波及効果、これは誰がどう考えても、例えば7,640人も利用されるのかどうか、また経済波及効果につきましても、何一つこの間、明確な説明ができていないことでありま

す。このことにより、今まではこのことに目をつぶり将来の発展のためと、今論点をすりかえてきていると思います。

先に促進協議会が関係市の全戸に配布いたしました広報紙では、新幹線はそもそも便利さだけのためじゃなくて将来の発展のためと、新駅の設置目的を書いています。つまり、栗東新駅が在来線の栗東駅から1.3キロも離れており、そんな駅を利用するぐらいなら従来の新幹線の米原駅や京都駅を利用する、私はこの広報紙はそのことを認めたことにほかならないと考えます。このように、便利さだけではない、このことを事実上認めた、利用しないことを認めたと私は考えています。市民が利用しない駅に、なぜ野洲市が2億6,900万円も負担するのか、このことを見ても既に負担根拠は破綻していると考えます。

2点目の問題であります。240億円そのものの不当性であります。一貫して言っておりますように、JR東海の経営計画から見て、請願駅というよりもJR東海自身が必要である駅であるということが明らかであります。6月議会で指摘しましたように、JR東海と西日本が共同開発しましたのぞみN700系の試作車両が完成し、報道されておりますように、このほど試験走行がされております。JR東海では、これによりスピードアップを行い、増便、増発を行う計画です。そのために、米原 - 京都間にどうしても待避する場所、留置する場所が、その機能を持つ新駅がどうしても必要なのであります。だから新駅の構造は2面5線であります。利用見込みが極めて低い栗東新駅がなぜ5線なのか、これを見ても、今言いましたように待避駅及び留置駅であることは明らかであります。しかも、このために約100億円も高い駅となっております。にもかかわらず、請願駅として全額地元負担というのは極めて不当であります。私はこのことは公金の不当な支出に値するぐらいの問題と考えています。

そこで市長に質問いたしますが、6月議会の答弁では、私は極めてこっけいな答弁だと思っております。それは、待避駅ではないという答弁であります。答弁では、かつては最高速度が210キロしか出せなかった0系車両がこだまとして走っており、一方最高速度270キロののぞみが走っていたため、どこかでこだまを待避させておく必要があった、しかし今ではすべての車両が270キロとなったので待避駅は必要なくなったという答弁であります。

これは極めておかしい主張であります。こだまやのぞみが同じ270キロであろうと、こだまは各駅停車、のぞみは特定の駅のみの停車であります。こだま、のぞみが同じスピードであろうが、そうでなくても、こだまが各駅停車すれば必ずから待避場所は必要であ

ります。だから、以前と現在では事情が違うというのは全く理由になりません。それどころか、6月議会でも言いましたように、あえて事情が違うと言うのであれば、以前に増して待避駅が必要になってきているのではないかと考えます。JR東海はのぞみを270キロから300キロにスピードアップさせることや早朝増便を計画しています。つまり、以前に増して待避駅や留置線が必要となっているのであります。請願駅としての性格がますますなくなっているのであります。本当に240億円も出さなくてはならない請願駅なのか。私は負担の必要のない、JR自身が必要な待避駅と考えますが、改めてそのことについての答弁を求めます。

次に、関係市の負担の問題であります。先ほども質問がありましたが、ご承知のように、負担の問題では促進協議会で当初の県案は、草津市が5億3,800万円、守山市が3億7,700万円、甲賀市が4億2,500万円でありました。そして湖南市が3億円、そして野洲市が2億6,900万円であります。大津市は促進協議会からの脱退を表明し、現在負担を拒否しておりますが、3億円であります。その後甲賀市から異論が出されまして、甲賀市が独自の試算をされまして2億5,000万円を提案。この額は甲賀市議会にも提案され、7月28日に議決されております。

そこでお聞きしますが、先ほど質問がありましたが、7月末から本日の野洲市議会まで、各市議会で負担の提案がされましたが、大津市の3億円、甲賀市の1億7,500万円、計4億7,000万円が不足しております。つまり私が言いたいのは、単に負担の高い、安い、不足分はどうするかだけではなく、関係自治体での意思統一がされていない、これはすなわち新駅設置の矛盾、そして市民の批判がこのような形で出ているのではないかと私は考えています。市長はこの件についてどのように認識されているのか、改めて考えをお聞きいたします。

最後に、繰り返し言いますが、市長もご承知のように、このような理屈の通らない費用負担について、県民全体でも、この野洲市でも市民の多くが疑問を持っています。市長も本当のところは市民の意向を、私は知っていると思います。栗東市でも1万6,000人、草津市でも6,000人、野洲市でも1,600名以上に上る市民から、費用負担やめよの請願署名が市議会に提出されました。市民は既にノーの審判を私は下していると思います。このような新駅に野洲市が2億6,900万円も出すぐらいなら、その税金を市民のために使ってもらいたいというのは、私は市民多数の声と考えます。今、新幹線新駅の問題を通して市政のあり方が問われていると考えます。このことを踏まえて、明確な答弁を

されることを求めます。

議長（秦 眞治君） 市長。

市長（山崎甚右衛門君） お答えを申し上げますが、待避駅であるのかないのかということについては6月の定例議会でもお話がございました。これはまた、総務部長が説明を申し上げておりますので説明をいたさせますが、先ほどからも出ていますとおり、負担金の多い少ないでいろんな議論があるじゃないかと、こういうことですね。

あそこで、いろんな計算方法をして計算をいたしました。我々勘違いで検討をいただいて、その結果によってこういう数値を求めてきたと、こういうことでございますし、目先の乗る乗らないの議論になれば、おっしゃるように京都、米原で乗ったら、その方が便利だということはあると思うのですが、だからその計算も先ほど総務部長が答えました内容に含まれておりますが、ただ私は、10年、20年先のこの地域のあり方について考えたときに、その活力の問題あるいは経済波及の問題等を考えたときに、今この負担金が高い安い議論はやっぱり危険であろうと、こんなふうに思いますので、現在の計算方法をもってやるべきであろうと。

ただ、大津市と甲賀市のことがよく出てくるのですが、これはやっぱり十分な検討をいただいて、県が示した額についてはそれなりの責任を持ってもらおうと、こういう思いをいたしておりますので、その分が仮に栗東市、県、あるいは我々の上にかぶさってくるものなら、これは拒否せざるを得ないと考えておりますので、ご理解をいただきたいと思えます。

以上でございます。

議長（秦 眞治君） 総務部長。

総務部長（山中清嗣君） 小菅議員の待避駅についてのご質問にお答えさせていただきます。

6月議会でもご答弁させていただきましたように、かつて東海道新幹線では最高速度が210キロしか出せない0系という車両がこだまとして、また最高速度が270キロの300系や700系などがのぞみとして走っておりました。このような中で、確かに議員が言われるように、のぞみが前を走っているこだまに、走っている間にだんだんと追いつきますので、どこかでこだまを待避させておく必要がありました。特に米原 - 京都駅間のような駅間距離が長い区間では、のぞみの増発のためには待避駅が望まれ、これをJRへのセールスポイントとして駅の誘致活動をしていた時期もございました。

しかし、現在は状況が全く違っておりました、これは6月議会でもお答えさせていただきましたように、東海道新幹線では0系や100系といった最高速度が遅い車両は姿を消しまして、すべての車両の最高速度が270キロとなりましたので、待避駅は必要なくなりました。新駅ができてきたまが各停する場合、それを追い越すということでございますけど、新駅ができるまでに、この間に、現在においても待避しないでこの運行の中で行っているということで、ご理解を賜りますようお願いいたします。

以上、お答えとさせていただきます。

議長（秦 眞治君） 小菅六雄君。

30番（小菅六雄君） はじめに、市長、ご存知かどうかわかりませんが、新幹線の新駅は約240億円と言われておりますが、栗東市が明らかにした資料であります、当然これに付随する各事業もいろいろあるわけですが、区画整理事業、土地開発公社償還の問題、あるいは今問題となっております草津線の新駅の問題等々、いろいろあるのですが、この総額が約656億円、実際はもっとかかるのではないかとされているのですが、それで新幹線の負担ばかりが問題になっておりますが、この総額656億円に対して県は161億円負担、そして関係市が29億円、これは栗東市が出した試算なのですね。だから240億円だけじゃなくて、県も関係市町も今後より一層負担がふえるのです。そういうことを念頭に置いて、巨大プロジェクトの中で考えなければならないと思うのですね。

まず、それを前提にしておきますが、そこで、市長、いろいろ言われましたが、最後の負担調整会議の問題であります、市長の先ほど来の答弁を聞いておりますと、甲賀市あるいは大津市の問題は促進協議会として認めたものではない、今後おのの自治体が努力されるもの、解決されるものと言われましたが、決して新聞報道というだけではなく、例えば中嶋甲賀市長は独自案を出さなければ調整会議は成立していなかった、これを本会議で答弁されているのです。新聞で読みまして私が確認したら、確かに本会議でそういう答弁をされている、本会議ですよ。あるいは別の話では、中嶋市長は、新幹線新駅の分担金は関係市の調整会議で県の案と同時に甲賀市の案を提示し、合意していただいた額だ、このような答弁をされているのです。これは山崎市長の答弁と全く逆ですね。言いたいのは、公式の本会議で参加団体の市長が提案答弁されて、それで議員が判断するわけですね。全く別の答弁で、それで議員を納得させるというのは極めて私は問題だと思うのです。各市議会で都合のいい提案と答弁されるということは問題だと考えますので、そ

れはどうか。私は余りにも無責任だと思いますので、もう一度この件についてお聞きしたいと思います。

それと同時に、もう一つ説明責任の問題ですね。これも、先ほど市長は市長選挙絡みで言われましたが、確かにそう言われました、私も知っています。しかし、市民が考えるのは高い安いの議論ではなくて、設置の是非ですね。新駅の設置の是非、負担をするかしないかの是非、それについての説明責任を求めていると思うのですよ。市長の先ほどの答弁では、県が2分の1、栗東が約100億円を負担するのがはっきりしたので、前向きの姿勢が見られたので譲歩したと言われましたが、市民が求めているのはそこではないと思うのですね。先ほど言いましたように、本当に新幹線が必要なかどうか、負担そのものがあるかどうか、それに対する説明責任は全然果たされていないと思うのですね。だから栗東市でも草津市でも野洲市でも、多くの市民が議会に署名請願をされたのでしょうか。そういう意味での説明責任をいつ、どう果たされたのか私はお聞きしたいと思います。

それと、部長が言われた駅の性格ですね。どうも、なかなかわかってもらえないような気がするのですが、JR東海自身が今、新経営戦略、計画を策定して、今進行段階なのですね。さっき言いましたように、スピードの遅い早いだけでなく、新戦略でのぞみの早朝増発、増便、スピードアップ、これによる増収、これが最大の今JR東海の経営戦略なのですね。そうすれば、東海道新幹線の中で一番駅距離間が長い中でどうしても必要なのが、この新たな、昔と違って、今経営戦略を明らかにして進行して、いざ進めたい段階に今なってきた時点で、一層待避駅、留置線、明らかになってきたのですね。それを認めてもらわないと、私、どうしても納得できませんので、だからそういう意味で、やはり時代と共に考え方は変わるのでありますから、誤りを正すことは何ら恥ではないですので、請願駅の性格から、やはり本来JR自身が設置しなければいけない駅ということを私はこの際認めるべきだと思うのですけれども、改めて答弁をお願いいたします。

議長（秦 眞治君） 市長。

市長（山崎甚右衛門君） 甲賀市の中嶋市長が甲賀市の議会ですというふうに発言され、どういふふうに説明をされたか、私は関与する必要がございませんので理解をいたしておりませんが、少なくとも促進協議会ではそういうことはなかったと。だから、私だけが申し上げているのではなしに、三和議員の答弁にも新聞をもって守山市長さんもこうおっしゃっていますよと、だからその会議ではそういう話はなかったですよということを強調しているのですよ。だから、私の責任ではないと、そういうふうに受けとめてほしいと思

ます。

説明責任の問題ですが、ある意味ではおっしゃるとおりだとも思いますが、先ほども申し上げましたように、そのことについて市民の皆さんに全体にお集まりをしていただいて説明したことはございませんが、個々それぞれの場所をお願いをしながら説明をいたしておりますし、今後もやはり額だけの問題ではなしに、アクセスの問題、いろんな問題について市民の皆さんに説明をする必要が出てこようと思いますので、全体を通じて説明をしていきたいと、こういうふうに考えておりますので、ご理解いただきたいと思います。

議長（秦 眞治君） 総務部長。

総務部長（山中清嗣君） 小菅議員の再質問にお答えさせていただきます。

先ほども答弁をさせていただきましたように、今の現状の中では時速は同じでございますので、極端に言って追い付くということはありません。だから、この滋賀県また湖南地域の方が新駅をつくって下さいという請願を行ってつくられる駅でございます。待避駅ではございません。ただ、新駅が完成した後、極端に言って、JR東海が運営経費は全部、後JRが持つわけでして、それを経営上効果的に活用されていくのは当然でございますので、その時点になって各停のこだまを追い越すということは当然起こり得ることでございますので、停車している新幹線を追い越していくということは当然考えられますので、今現在の中で、どうしてもJRが待避駅をつくらなければならないという状況じゃなく、極端に言って、請願駅で私どもは要望をしたということをご理解いただきたいと思います。

議長（秦 眞治君） 小菅六雄君。

30番（小菅六雄君） 部長、そんなの絶対おかしいですって。部長の言われる範囲でしたら、なぜ2面5線の、そんな240億円もするような駅が要るのです。部長が言われる範囲でしたら2面4線で十分なのですよ。もう同じことを何回も言わさないでほしいのですが、JR東海が増便なりスピードアップなりするのです、早朝増発とかも含めましてね。だから単にこだま停車だけではなく、6月議会でも言いましたように、留置線も必要なのです、とめ置き線ですね。大阪の基地が今、満杯になったという状況を含めましてね。だから、留置線まで関係自治体が負担してあげると、これは絶対矛盾でおかしいと思うのですね。2面4線でしたら、約100億円安いのですよ。そこから見ても、いわゆる余計なものに100億円も関係市町が出しているとは思いません、栗東と県であります。それを認めないのは、どうしてもおかしいことを表明したいと思います。

それと、市長、さっきも答えていただけなかったのは、これからそれぞれの場所でも説

明すると言われましたが、私が先ほどお聞きしたのは、一つは安くなったらいいという問題ではないということです。市民の今最大の疑問は、本当に新駅が今必要なのかどうか、負担そのものがたとえ1億であろうが5,000万円であろうが、いいのかどうか、そこを市民が最大の疑問を持っているわけなのですね。だから市長が言ったように、負担金が少なくなったからいいのではないということなのです。そこでは多くの市民が今なお全く疑問に思っておられますし、住民アンケート、住民投票をすれば、野洲市でもはるか過半数以上が反対されますよ。そういう意味での説明責任は果たされたのかどうか、それについては答弁がなかったと思いますので、お聞きしたいと思います。

それと、関係自治体の市長が確認をして、意思統一をして、共同提案をして、各市議会に提案をするのですね。提案の後、そんなばらばらとは無責任だと思うのです。それは甲賀市長の言っていることだとか、あるいはその後守山市長によると、甲賀市のあの件については何だかんだと言うのは、これは極めて無責任です。そういう意味で、市民に説明できないような提案、これは絶対認められないと思いますので、やはり私は意思統一されていないまま提案されたことについては極めて問題であると思いますので、まず意思統一をしてからもう一度提案し直せと思っていますので、いかがでしょう。

議長（秦 眞治君） 市長。

市長（山崎甚右衛門君） 甲賀市長が甲賀の市会でおっしゃったことについては関与しませんと申し上げた。促進協議会ではそういうことは出ていませんのでね。だから、私の責任では何もないですよ。何で私がそうして責任を持たないといけないのですか。決まったことを議会に提案して、お認めをいただくとしているのが私の態度ですよ。

30番（小菅六雄君） 決まっていないことを……。

市長（山崎甚右衛門君） 誰が認めたとは言っていません。先ほどから何回も言っています。それは向こうさんが考え、向こうさんが行っておられることですから……。

30番（小菅六雄君） そんなことでは、あかんやん。

市長（山崎甚右衛門君） あかん言っても、私知りません。向こうに提案権ありません。そうでしょう。まあ、そのことは、それ。

それと、安ければいいと、僕はそんなことは決して申し上げていませんよ。

30番（小菅六雄君） 言ったやん、さっき。

議長（秦 眞治君） だまって下さい。

市長（山崎甚右衛門君） 湖南地方に新幹線の新駅をつくろうというのは20年来前か

らの要望なのです、湖南地域に住む者の市民が。それを湖南総合開発で取り組んできたのですよ。当然、駅ができるとなったときには、負担は応じていこうというのがみんなの考えでした。先人たちのですよ。だから、そのことがものの現実になってきて費用負担をしなければならぬと、こうなった。それを県が一定の基準を設けて計算をした額、それは納めていこう、そのことによって新幹線が栗東駅にできるのだ、だからそれが経済波及効果もあるだろうから、このように負担をしていこうと。金銭の高い安いの議論じゃないと思いますので、ご理解いただきたいと思います。

議長（秦 眞治君） 総務部長。

総務部長（山中清嗣君） 小菅議員の再々質問にお答えさせていただきます。

お手元に配付させていただいております東海道新幹線新駅についての資料の1ページに、今小菅議員ご指摘の5線目の絵が出ております。一番下の下り2番線が小菅議員が言われている2面4線であれば待避駅でないけども、この5線目があるから待避駅というご質問でございます。これは6月議会でもご回答させていただきましたのですけども、この下り2番線についてはJRが費用負担を行います。よその新幹線新駅より高がついているのは、6月議会でも説明させていただきました盛土区間に駅を設置するためということで、この下り2番線についてはJRが負担いたします。この残す理由としては、JR東海の対策能力の確保、地震などの非常時に乗降できると。そして、もう一つは、仮線を撤去する場合、経費が残すよりも高く付くという問題点等もでございます。この部分の工事についてはJR東海が負担いたします。

以上、お答えとさせていただきます。

議長（秦 眞治君） 次に、通告、第3番、太田秀司君。

3番（太田秀司君） 3番、太田秀司でございます。議第78号平成17年度野洲市一般会計補正予算（第2号）これにつきまして質問させていただきます。

単刀直入に言います。持って回ったような質問は一切しませんので、市長も心して単刀直入にご返答を、一つよろしくお願いします。

市長は常々、将来の湖南地域の発展のためには新幹線栗東新駅、これは必要だと述べておられます。しかし我々野洲市民にとって、本当にこれが必要なものなのだろうかとは私に考えます。そんなに必要なものならば、どうして市長は市民に説明責任を果たし賛同を得ようとされないのか。市長裁量でどうにでもなると思っておられるのか、仮になったとしても、これだけ多くの負担金を提供することに何ら抵抗はないのか不思議ではあります。

失礼な言い方もわかりませんが、これは市長ご自身、あなたのお金ではございません、市民全員のもので。この苦しい時代に、言い方が悪いかわかりませんが、何も付き合いのため、いわゆる湖南は一つという付き合いのために2億7,000万円弱のお金を負担することはないと考えます。どこのご家庭でも、もし家計が切り詰まってきたら交際費を削ろうと、これが当たり前の考えだと思います。今の本市にそんな負担をするような余分なお金はないと私は思います。

これまでは新聞紙上である程度、促進協議会、この流れやその経過がわかってはきましたけれども、市長ご自身から一度たりとも市民にその必要性を訴えてはおられないと思います。市長にいわゆる自信と採算があると思われるならば、今こそ市民に直接その信を問うべきときだと思いますが、いかがなものでしょうか、一つご答弁をよろしく願います。

議長（秦 眞治君） 市長。

市長（山崎甚右衛門君） ご質問を要約いたしますと、新幹線栗東駅が何で必要なのか、これは先ほどからも説明申し上げておりますとおり、また先ほど20年と申し上げましたけど、済みません、30年来です。先人たちが何としても新駅をつくらうということで取り組んでこられた、その内容は、やっぱり必要であってそういう運動が起こされたと、こういうふうに私どもは受けとめておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

何の抵抗もないのかと。いや、お金を出すということは、やっぱり議会の皆さんにも十分ご理解をいただいて提案いたすべきでございますので、それなりのことについては、財政上の問題についても種々検討をいたして提案をいたしておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

交際費を削ってやったらと。今、我々が与えていただいている交際費は過去10年から見たら10分の1ぐらいの交際費ですから、そういうものではないと思います。

説明責任、先ほどから出ておりますが、私は機会あるごとに説明をいたしておりますと申し上げております。そこで必要性について申し上げておりますし、実はこの議会も、私は湖南地方の議会が終わってからしか提案しないと、これは絶えず私は申し上げてきました。先立ってはやらない、湖南地方の皆さんがご理解あっての上で野洲市の態度を決めようと、こういうことも常々申し上げてきました。たまたま湖南市は28日に予定されていたのですが、都合によって8月5日に延びたということでございますが、わざわざ市長さんが野洲の市長は一番最後に提案するというをおっしゃっていただいたが、都合に

よって我々の招集が5日にしかできない、こういうことで理解は得るので、どうぞ野洲市は1日に提案をして下さいと、ここまでの話もしながら提案をいたしておりますので、そういうことについて十分ご理解をいただきましてお願いしたいと、こう思っております。

新聞紙上でいろんなことが行き交いしているのですが、何と申し上げましても、野洲市ではこれだけの負担をしていこう、そして将来のまちづくりの起爆剤にしていこうと、こういう思いもいたしておりますので、ご理解をいただきたいと思えます。

以上、答弁といたします。

議長（秦 眞治君） 太田秀司君。

3番（太田秀司君） 答弁になったのかどうか、ちょっと疑問に思うのですが、この問題に関しましては、本当に疑問に私も思いまして、逐一こうして新聞に出るたびに全部スクラップとしてとってきたのです、非常に気になって。本当にこれが必要ならば私だって反対しないのですが、どんな角度から見ても、今の現状を踏まえたら野洲市にはこれは必要がないと思う。何かを言われたら、とにかくこの湖南地域の発展のため、発展のためと、これでどこまで発展するのだと。これを、一般市民はご存知ないのですよ。

そういう説明を、先ほど小菅さんもちらっとおっしゃったけども、やはり市長が本当にこれは必要だと、皆さんの賛同を得ようと思うならば、これは反対の署名をとったら明らかに多いのは決まっておるのですよ、これね。栗東であれだけあったのだから、野洲だったらはるかに反対の署名が多いです、間違いありません。だから、それをやっぱり市民の方に納得していただいて、それでこれをつくろうと言ったら、本当に気持ちよくつくれますわな。

そういう意味から、やっぱり僕は市長の立場だったら、本当にどこでもよろしい、どこでもいいから、そういう説明会でも開いて、市民の人、どうぞご自由に来て下さいと、聞いていただくと。そこで聞いていただいて、最終的に、それは市長にとったら不安かどうか知らないけども、本音からいいますと賛否をとるぐらい、僕はそれぐらい1回やってみたらどうかと思うのですよ。

それはもちろん法定上は議会で決まるのだから、それはそれでいいのですよ。いいけども、そういう市民の一人おひとりがそういう不安な気持ちを持ったままこれを推し進めていくというのは、きっと将来、禍根が残ると思うのです。そういうことを残さないために、やっぱり市長ならばそういう方法をとるのが僕はベターだと思うし、ましてやその現状からかんがみますと、実際、米原駅と京都駅がありますけども、どっちにしたって下り

上りも、多分野洲市民はほとんどどちらかを利用されると思うのです。わざわざ、あそこへ行って、そんなもの乗りかえて行くなんていうことはまずないと思います、現実のところ。

だから、発展、発展とおっしゃるけども、駅というのはあくまで交通の手段ですので、それが大事ですよ、一番は。それを利用するかしないか、それは当然です、市民の方がおっしゃるのはね。それに付随して、発展するかしないかなのですよ。だから、それはわかるのだけでも、発展もいいことかもしれないけど、僕は何も発展ばかりがいいとは思っておらない。野洲市はこれだけ、滋賀県下でも3番目に文化財の多いまちなのです。文化のまちとして、やっぱりそういう基盤づくりをするのも一つの方法だと思いますし、ましてやその経済的な波及効果が野洲まで及ぶとはとても考えられません、私は私の一応調べたあれによりますとね。

そういうことから、いろんなことを考えると、本当にこれは必要なのかなとずっと疑問に思っていますし、こうして反対というか、そういう立場から何人かの議員さんが発言されると思うのですけども、この少数意見が多数意見なのです、現在野洲市において。これを無視してやられるというのは、僕は本当に納得いかないと思いますし、そこら辺のところを十分お考えになって、やっぱり今後の市長の政治生命にもかかはずらってくると思いますし、そこら辺のところはやっぱり。

本当に我々はあくまで市民の代表として来ていますので、だからやっぱり、それは当然こういうことを言わざるを得ないというのも私の責任だと思いますし、私自身もそんなに失礼だと思っていないし、私は本当にここで、促進協議会はどうでもよろしいやん、そんなこと。あなた、山崎市長ご自身のお考えをお聞きしたいのですよ。私は本当にこう申し上げる、これは必要だと思うのですよというお声をね。それならば、また考え方も変わりますけども、ただ促進協議会が言っているからこうだとか、あそこが言っているからこうだとか、そんなことはどうでもいいのです、僕は。あくまで我々は野洲市民ですから、野洲市民の立場に立ってこれを発言していますので、そこら辺の本音というか、なかなか言いにくい面もあるうかと思うのですけども、そこら辺のところを十分お聞かせ願いたいと思います。一つよろしくお願いします。

議長（秦 眞治君） 市長。

市長（山崎甚右衛門君） 促進協議会がどうであった、こうであったと、これは私が申し上げているのじゃないのですよ。質問があるから答えていますので、ちょっと誤解しな

いようにして下さい。

駅は必要だと思います。私も長年、こうした行政の立場でいろんな取り組みをさせていただきました。JR東海にも要望に行きました。あるいは西日本にも行って、複々線の問題も要求もしております。しかし、すべて栗東駅ありきで物事が進むということについては私は若干の寂しさを感じるのです。だから、そのことが湖南地方においてどういうまちづくりにつながっていくのか、それが国道8号バイパスが完成できるじゃないか、あるいは野洲までの複々線化が実現のものになってくるじゃないかというような、総合的なまちづくりをするためには新駅は必要であると、こういう私個人の思いは持っておりますので、促進協議会が言うからこうだと、こんなあやふやなことではございませんので、よろしくご理解いただきたいと思います。

議長（秦 眞治君） 太田秀司君。

3番（太田秀司君） 本当に、これは野洲市民にとって必要だと思われるならば、30年、過去からやっておられますけど、一般市民は本当にご存知ないですよ、実際のところ。おっしゃる人に聞いても、多分。現に、あちらこちらで説明したとおっしゃっていただけますけども、例えばうちの自治会員さんの皆さんに聞いても、そんなもの知らないという方が大半ですわな。実際のところ、はっきり言います、そんなこと。これは区長会やあちこちの団体のそういうのでは多分言っておられるでしょう、おっしゃるとおりね。ところが、一般の一住民はご存知ない方が大半なのです。だから、そこら辺の説明を、僕はされる方がやっぱり当然だと思いますし、どうしてもこれは10年、20年、30年前から必要だと思うのだったら、何でそれならもっと野洲に、それは今の市長の責任ではないのですけどね。野洲が一番近いし、新幹線のあれからですよ、そんなもの、はるかに便利なら、何で野洲に持ってこないのだと一般住民は思いますわな。私だって当然そう思います、何で持ってこられなかった。これは過去の経緯があるからわかるけども、どうしてもそれをやると言うのだったら、もう一回、一から手を挙げて、よし、野洲に持ってこいと言うぐらいの意気込みがあったら、また違うのですけど。

それと、現在を見てわかるように、発展、発展とおっしゃいますけど、米原駅を見たらわかるでしょう。発展しています、あれ。あれは北陸線との分岐点のあんないいところにある場所があるのだけでも、あの程度ですわな、言ったら悪いけども。ああいう状況だから、栗東へ持ってきたからといって、決してあれと一緒になるとは思いませんけれどね。しかし、それが本当に経済的波及効果があるのかというのは、本当にいまだに疑問ですよ。だ

から、そこら辺のところを十分踏まえて今後も推し進められていきたいと思ひますし、いづれにしても私の立場からしたら、市民の声を代弁しまして、この質問を何回もさせてもらっていますけども、やっぱりこれはもう、幾ら考えてもおかしいという考へが、もうそれをぬぐえません。ですから、やっぱり今後市長に関しまして、もう一度、本当に市民一人ひとりのお考へを十分認識されて、もう一回、皆さんの前で訴えられる、それをぜひとも実行されていただきたいと思ひますので、一つよろしくお願ひします。回答は要りません、お願ひします。

議長（秦 眞治君） 次に、通告、第26番、鈴木市朗君。

26番（鈴木市朗君） ただいま議題となっております平成17年度野洲市一般会計補正予算（第2号）について質疑を行いたいと思ひます。

今課題に上がっております新幹線は、昭和39年10月1日、これは思い起こしますと、たしか東京オリンピックに向けての開業だと私は今、想像しております。そしてまた開業以来、昭和63年に三河安城、さまざまな駅が3駅ほど、新駅の設置が可能となって、その実現に向かつてきたわけですね。市長は今、我々のこの課題は30年前だとおっしゃいました。20年ということをして30年に訂正されましたね。新幹線の新駅が、そもそも新しく駅ができるというのは昭和63年以降なのです。だから、我々としてはそういうには全くなかったということをして意識しております。それは申し添えておきます。

そして、今さまざまな部分で議員の方から質疑がありましたので、重複しないようにやっていきたいと思ひます。まず、栗東新駅に関しましては、栗東市はたばこ消費税を当てにして、栗東が中心となって進めてこられたということは事実でしょう。それが今こういう、たばこ消費税を当てにできないということになってしまった現在、この負担額を周辺市に求めてきているということですね。平成11年8月にはびわこ栗東新駅設置促進協議会会長に滋賀県知事は就任されていますわね。そのときでも、栗東が中心になって財政負担をする、いわゆる栗東プロジェクトであったはずだと私は認識しておりますよ。それなのに、今現在こうして蓋を開けてみますと、県をはじめ、金額というのは皆さんおっしゃいましたから控えさせてもらいますが、関係市へ負担を求めているということが今の現実なのです。

先ほども、市長が選挙公約のときに負担金は出さないということをして約束されていますね。あなたのおっしゃることは常に裏と表があるのですよ。選挙公約というのは、これはあくまで公約ですから、出さないというのは、1円のお金でもやっぱり出したら出したになる

わけですね。やはりそういう部分で、市長の姿勢を私は疑うわけなのですよ。皆さんの前でそれだけのことをおっしゃっているわけですから、その辺はやはりきちっと考えてもらいたいと思います。それが第1点目の私の質問です。

それと、次に説明責任の関係ですね。これは私も、この前の6月議会でも申し上げました。ちなみに、市長は各種団体の総会の席で新幹線のことを説明していると、私に対しての回答をされましたね。例を挙げて、どのような総会で、どういう形で説明されたのか、そういう部分をお尋ねしたいと思います。

そして、中主町と合併するとき、私も後半ですが合併協議会委員の一人として入らせていただきました。その中で、これはソフト部分なのです、字名をどうするかということが一つの議題として上がりましたね。町をつけるかつかないか、大字はつけて町をつけるとか、そういうさまざまな議論があったはずですよ。そこで私はただ一人、何で今さら合併して町をつけるのだと、そんなばかなことはやめなさいということを申し上げ、そこで各区の役員さんにアンケートをとってもらいましたね。そうしたら、その結果はどうでした。私の言っていることが圧倒的に多かったでしょう、違いますか。だから、今のあれは野洲市何々何番地ときて、郵便物が行くようになったのですよ。ですから、そんな簡単なことができるのに、なぜこの新幹線の問題を、そうしたような、せめてこの役員さんに対してでもアンケート方式でも、やっぱりこれをどうしてやられなかったのか。経済波及効果、経済波及効果と言っている、どこまで波及効果があるのか、それもさっぱりわかりませんね。具体的にどのような波及効果があるのか説明を求めます。

そして、今のこの説明責任の中で、この間これ、栗東市の役場で上げてきたのですよ、人をお願いして。こういうものがあるのに、どうしてこれを各自治会へ配らないのですか。せんだって、県が出している漫画チックな新幹線のなにが出ていましたね。あれは漫画ですよ。いいことだけしか書いていないのですよ。だから、長所があれば必ず欠点があるということを忘れてはだめですよ。あんな漫画で人は納得しないですよ。どうして、こういういいものがあるのに、これも長所だけしか書いていません。市長、促進協議会の副会長でしょう、こういうものがあるのですよ。副会長と違いますの、ただの会員ですか。どうしてこういうものを自治会に配らないのです、これ。議員さん、持っていますか、これ。持っていますか。ないでしょう。こんないいものが、栗東市へ行ったら何ぼでもあるのですよ。それに、財政負担、財政負担と、これを提案されているのですね。議員さんもこんなもの持っていないのに、どうしてそんなものを理解できるのです。何かおかしいのじゃ

ないですか。

これ、東海道新幹線仮称びわこ栗東駅設置促進協議会から出しているのですよ。ちゃんとこれがあるのですよ。この中身を見ていたら、さまざまな部分を書いています。その中で、他の駅に比べたら栗東駅というのは一番使いにくい駅です。ちなみに、今のJR琵琶湖線の栗東駅から1.3キロ離れた栗東新駅までシャトルバス、栗東駅は新快速がとまるのですか、とまらないのですか、これからどうされます。それと、栗東 - 手原間の中間駅、400メートルの動く歩道、そういう経費はどこが持つわけなのですか。だから、シャトルバスの運行が1日にどれぐらいのものになって、料金体系はどのようになるのか。駐車場の料金は設定されましたが、シャトルバスの料金は設定されておられないですね。それが、どれだけの便が出て、金額は往復で幾らになるか、当然そんなことは積算されての上程だと私は思いますよ。

そして、もう一つ大事なことは、琵琶湖側にある積水ハウスの移転、それをどうされるのですか。あの工場がある中で駅周辺の発展は望めないですよ。山手側の50ヘクタールですか、その部分だけなのですよ。ああいう部分は、どういように今問題解決されようとしているのか、当然、促進協議会あるいは栗東市でその部分は詰めておられると思います。今現在どのようになっているのか。私がなぜそのようなことを申し上げるかといいますと、石山駅が発展しないですね。石山駅の琵琶湖側に何があります、あれ。大きな工場がどんとあるでしょう。だから石山駅なんて発展しないでしょう。栗東新幹線の駅も同じことなのですよ。私もせんだって委員会で福岡県まで研修に行きました。こだまやひかりの停車駅、さまざまな駅がありますけれども、必ずしもその駅周辺が発展しているところはないです。岐阜羽島に関しましても、開業以来からできておりますが、いまだあのような状態ですね。皆さんもよくご存知のとおり、あの岐阜羽島は大野伴睦さんが強引につくられた駅なのですよ。すべて更地のところに駅ができたのですね。更地で障害物もないのに、まだあれだけの発展しか見られないのですよ。あれは昭和39年ですよ。だから、さまざまな障害がある栗東の新駅で、何が期待が持てる。そういうことをきちっとやっぱり再確認をしていただきたい。今ずっと申し上げましたが、さまざまなことを私は質問しているということだけは忘れたらだめですよ。回答漏れがあったら、また私は言いますよ。二度目で言わないですよ、これが抜けてある、あれが抜けてあると言いますよ、座ったまま。

それと、甲賀市の問題が出ましたね。重複しますので、できるだけ避けていきたいと思

いますが、中嶋市長さんが提案されたときには、やはりその減額を認められたということで提案されているのですよ。市長が、そんなよそのことは知らないとか知っているとか、そういうような次元の話を私はしているわけではないのですよ。提案理由のときに、そうおっしゃっているのですよ。後で新聞社に対してそういうように言ったと発表したとか、そんなレベルの話じゃないのですよ。

そして、アクセスの問題も先ほど申し上げましたが、国8バイパスの関係が絡んできませんね。栗東のことが先ほど出ましたが、野洲でどうなのですか。一步もまだ前へ進んでいないでしょう。測量にも入れていないでしょう、まだ。七間場の問題もあり、オリベストの問題もあるでしょう、三上の地権者の問題もあるでしょう。あれから前に進んでいますか。そのような状況の中で、県が言われたとおりに、はい、右向け右と言ったら右を向く。

例えば、これは6月議会でも申し上げましたが、県は財政構造改革の中でわずか40万円しか出していない、補助金も出していない、近江八景の唐崎の松、それを40万円を削ったのですよ、県は財政構造改革の中で。それで後で言っていることが、それは近江八景の一つの唐崎の松ですから、そして松が枯れても名勝には変わりないというようなばがけた発言をしているのですよ。そんなばかなことを言っている県に対して、やはり何らかの形でアクションを起こさないとだめなのですよ、我々の議会も含めて理事者側も。

それは、いいこともあれば悪いこともある。ただ、新幹線の駅ばかりは長所もあれば短所もあるということだけはよく確認しておいて下さい。1回目の要旨を終わります。

議長（秦 眞治君） 市長。

市長（山崎甚右衛門君） 質疑の通告をいただきながら内容が全然把握できておりませんでしたので、補正予算についてという題目で質疑をいただきました。私の関係するところはお答え申し上げ、またあとは部長からそれぞれ補足をしていただくということでいきます。

栗東市の財政の家庭的な事情でございますが、たばこ消費税を早くからお取り組みになりまして、非常に財政的に恵まれたということで財政運用を行ってこられたのですが、ただ、このことが新幹線の駅のためにやられたということではなかったように私は解釈するのですけどね。ならば、100億も基金があったはずなのですが、今、よそのことでございますので、それ以上は申し上げられませんが、そうではなさそうでございますし、また最近では非常に厳しくなったということで、おっしゃるとおりできておらないと、このように思います。

私の選挙公約についてあったのですが、私は2つの理由、これは議会でも申し上げたと思うのですが、一つは県と栗東市の態度いかんによると。もう一つは、先ほどから出ていますように、湖南総合開発で同時に取り組んできたことの中の一つが現実のものにできてきた、今まで取り組んできたことはどうするのだと。そのことをはっきりと湖南地方のそれぞれ4市が認識し、あるいは県も施策の上で取り上げてくれるならということで、議会の特別委員会もお願いしまして要望に行ったということで、県はそれを認めているということで、私が当初申し上げたことの内容についてはそれぞれのお取り組みをいただくと、こういうことで申し上げておりますので、ご理解いただきたいと思います。

説明責任ですが、どこで、いつ、どのように説明したかということは記憶がございませんが、区長会、自治会長に寄っていただいたところ、あるいはその他会議等、公の会議の場所では絶えずこのことは申し上げてきております。この間も松風大学で1時間半の講師をやれと、お話をさせてもらったときも、このことは必要ですよということも説明をさせていただいておりますし、ご理解を得たものとして、あらゆる機会にそういうことを申し上げておる、こういうことでお願いしたいと思います。

経済の波及効果、これは早くに調査結果、議員さんのお手元に配付できたと思うのですが、それでまたいろいろと説明をさせていただきたいと思います。

新快速がとまるか、シャトルバスがどうだとか、これは今後の課題になると思うのですが、そういうことについては個々協議があると思いますので、そのときそのときの対応をしていきたいと、このように思います。

積水ハウスがどうかこうとかというのは、やっぱり区画整理にあたって積水ハウス、なかなか大変な費用で、ざっと計算しても200億かかるとかという話もございますが、それを果たしてどけるのかどけないかは、これは栗東市に係る問題でございますが、そういうことがあることは私たちも十分に認識をいたしております。そういうことで、ご理解をいただきたいと思います。

甲賀市長がそれを了解を得たので提案したと、こうおっしゃっているということは先ほどから申し上げていますとおり、それ以上中傷も何もいたしません、促進協議会では認めておらない、それは私だけの意見ではない、守山市長もそうおっしゃっている、草津市長もそうおっしゃっている、こういうことでございますから、ご理解をいただきたいと思います。

その他、8号バイパスの問題、いろんなアクセスの問題も出ましたが、それぞれ部長が

らお答えをいたしますので、よろしくお願い申し上げます。

26番（鈴木市朗君） 市長、済まないけど、各種団体の席上でとおっしゃったけど、あなた、少なくとも各種団体の席とは、どれぐらいの総会に行かれたのですか。それぐらい、ちょっと固有名詞でも挙げて下さい。

市長（山崎甚右衛門君） 区長会の年度当初の集まりも行きましたし、学区ごとに寄っていただいたときにも行っております。あるいは農業委員会の総会なんかもやっていたときにもお話をしておりますし、日赤奉仕団、あるいは民生児童委員の総会のときにもお話ししています。やっぱり、そういう団体にも申し上げていますよ。それで、大体総会の時期でございましたから、そういう総会の時期にも申し上げておりますので、ちょっと今は、個々の固有名詞は挙げることはできませんが、ご理解をいただきたいと思います。

議長（秦 眞治君） 総務部長。

総務部長（山中清嗣君） 鈴木議員のご質問にお答えいたします。

1点目は、栗東駅からのシャトルバスの使用回数、また料金等のご質問でございますけれども、一応交通手段として琵琶湖線の栗東駅から新駅へシャトルバスの運行を行うということでございます。まだ回数、料金等については促進協の中では協議をしておりません。

そして、積水ハウスの移転はどうなっているのかということでございますが、今現在、栗東市の方で具体的に会社側と調整中でございます。

以上、お答えとさせていただきます。

26番（鈴木市朗君） 動く歩道の経費はどうだ、担当外なのか。それと、これの問題はどうなのか、この冊子の問題。それとアンケート。人の質問をよく聞いておけよ。

総務部長（山中清嗣君） 動く歩道の件でございますけれども、この件につきましては今現在の負担の中に入れておりませんし、栗東市の方で行うということでこちらは聞いております。促進協の中では協議しておりません。

26番（鈴木市朗君） 動く歩道の運営費だ。運営費を尋ねているのだ、わし。

議長（秦 眞治君） 暫時休憩。

（午前11時40分 休憩）

（午前11時41分 再開）

総務部長（山中清嗣君） 先ほどお答えしましたように、栗東市の方で計画していくということで聞いております。また、議員ご質問の運営については議論はされておりません。そして、アンケートについては先ほど市長の方が申しましたように、それぞれの各団体等

へ市長として果たしてっておりますので、アンケートは行っておりません。

以上、お答えとさせていただきます。

26番（鈴木市朗君） それと、県の財政改革の中で唐崎の松の件を、県がそういうことを言っているけど、市長としてどういうふうに考えているのか。それを、本音として言ってもらわないと困る。

議長（秦 眞治君） 市長。

市長（山崎甚右衛門君） その唐崎の松のことは、この前の定例議会で鈴木議員がおっしゃって、初めて聞いて、今2回目で聞いていますので、不認識でございまして、申しわけございません。お答えをすることができませんので。

議長（秦 眞治君） 鈴木市朗君。

26番（鈴木市朗君） 大事な税金、2億6,900万という市民の血の通ったお金を今回債務負担行為として出していくわけなのです。それなのに、今まで議員が質疑された中で、本当にまともな回答がないのです。そうした中で支出をしていくという、この状況。例えば行政も行政なら、これを通す議会も議会だと思います、私は。こんなもの、私が合併協議会の字名を決めるのにアンケートをとりなさいと言ったら、アンケートをとった結果は、私が言っているのが通っていったと。今回のこれでも、アンケートをとったら、こんなことはやめておきなさいとおっしゃいますよ、皆さん。

それで、もう一つだけつけ加えて言いますが、質問じゃないです。行政のリーダーというものは、私、中主の方と合併して、議会もなのですけど、初めて思ったです。失敗しても責任をとらないですね。それでしまいですね。例えば、中主の工業団地についてはそうでしょう。所期の目的から外れているでしょう。大失敗なのです。それでも責任をとっていないですよ。だから、行政というところはそういうところなのです。会社なら、もう即ですよ、企業ならね。行政はそういう甘いところがあるわけなのです。それだけは、理事者の皆さん、認識していて下さい。これ、営業経費をかけて血と汗で稼いだ金だったら、そんなことはできないです。ところがこれは、市民がアリのように働いて納めた税金を使うわけです。だから、やはり我々は議会としても慎重に慎重を期して、最大公約数のもとで実行していかなければならないという思いを私は持っております。さまざまなことを申し上げましたが、全くの回答にはなっていません。

最後にお聞きしますが、積水ハウス、栗東で取り組んでいるという移転ね。積水ハウスの面積と工場の全資産はどれぐらいあるのですか。移転費用はどれだけかかるのですか。

ちなみに、この間の新聞では600から800で上がっていましたね、周辺整備。今、区画整理事業とおっしゃいましたが、区画整理事業は山手の方の50ヘクタールなのです。積水ハウスのところは入っていないのです。あなたたちは、そういうことを平気で議員の質問に答えているのです、間違っただけです。私が記憶している、このなかに載っているのでも、山手の方なのです。だから、そんな積水ハウスといったら区画整理事業の中で栗東が。そんなばかげた回答ってあったものですか。どうなのです。積水ハウスの工場用地の総面積と建物の総延べ坪と、中にある機械・器具の総資産、移転させた場合を。これは予算ですからすべてのことが入りますよ、新幹線の件ですから、これは。新幹線に関連した質問をしているのですからね。それぐらいのことは答えて下さい。それと、市民への最大公約数がどこにあるか、再度お尋ねします。

議長（秦 眞治君） 暫時休憩いたします。

（午前11時48分 休憩）

（午後12時59分 再開）

議長（秦 眞治君） それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

総務部長。

総務部長（山中清嗣君） それでは、鈴木議員の再質問にお答えさせていただきます。

積水ハウスに関する件でございますけども、休憩中に栗東市の方へ確認をいたしました。用地を含めて、土地については16ヘクタールでございます。ただ、この移転費用等については、具体的にはまだ積算しておられません。今後、栗東市において具体的に詰めていくということです。ただ、今現段階においては都市計画道路で、先ほどご質問がありましたように、栗東駅から新駅への都市計画道路の決定はしているということでございます。

以上、お答えとさせていただきます。

26番（鈴木市朗君） 建物の総延べ面積。

総務部長（山中清嗣君） その件に関しては栗東市の方から回答を得ておりません。

議長（秦 眞治君） 鈴木市朗君。

26番（鈴木市朗君） 栗東市の方へ問い合わせたということで、土地面積が16ヘクタール。ちなみに私が質問したのは、土地建物総計の資産額ということをお聞きしておりますので、やはり質問にはきちっと答えていただきたいのです。やはりこれだけの県費を投じて、すべて関係市を踏まえて240億の仕事をするわけですから。

せんだって、新聞報道では土地区画整理も含めて、どんなことがあっても600億や8

00億という数字が実際に上がっておるわけなのです。そうしたときの負担がどのようになってしまうのか、そういうこともやはりきちっと押さえてかかっているかなければ、まちづくりなんてできないですよ。積水ハウスの件を質問したにもかかわらず、土地区画整理の中でやっていくとか、そういう間違っただけの回答をしてもらったら、我々としては納得しがたいのです。だから、今の240億以外に将来的にそれだけのお金が必要ということがもう目に見えておるわけですからね。だから、安易にそのことを除外して進めていくのは非常に危険だろうと思うのです。いったい、その他の経費というのはどこから出るのですか。

私は新幹線の問題に絡んで質問しているわけですから、明確に回答してもらわなければやっぱり市民も納得しないと思います。それと市長も先ほど説明をしているということで回答がありましたが、それぞれの団体へ行って説明をしているということですが、市長は来賓として行っておられるわけですね。来賓の挨拶の中でその説明をされているわけですから、受けている方は質問できないわけなのです。片道通行なのですね、わかりますか。ただ、それは片道通行でお話を挨拶のときにされているというだけで、何ら説明じゃないのです。だから、聞いている方は、あなたが言っているのは一方通行の説明だと、私はそのように感じております。

今の、まず積水ハウスの件、どういう形で取り組んでいくのか。2億、3億近いお金をやっぱり出していくのですから、その辺をきちっと明確にして下さい。中途半端な回答はやめて下さい、時間の無駄です。

議長（秦 眞治君） 暫時休憩いたします。

（午後1時04分 休憩）

（午後1時04分 再開）

議長（秦 眞治君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

市長。

市長（山崎甚右衛門君） 積水ハウス。私、先ほどのお答えの中で、区画整理及び移転には、聞くところによると、200億ほどと言いました。言いました。それ以上我々は把握しておりませんので、ましてこれからいろんな事業として取り上げてやっていけるのですから、それ以上我々では把握しがたいので答弁はできないと思います。

それと説明責任、おっしゃるとおりです。その場をおかりしてご理解をいただこうということで、わざわざ集めていません、これは冒頭からお断りしておりますとあり、その場

をおかりして情勢はこうですという説明をしていますので、それは聞いておられる方の判断だと思しますので、ご理解いただきたいと思います。

議長（秦 眞治君） 総務部長。

総務部長（山中清嗣君） 鈴木議員の1回目の質問の中でございました、議員から提示されましたパンフレットについてでございますが、そのとき私ども、把握できておらなかって回答ができなかったわけですけれども、平成15年に促進協で作成されたものであります。平成15年12月22日の旧野洲町の議会全員協議会で促進協第1回調整会議の内容説明とあわせて配付をさせていただいているところでございます。旧中主については若干把握できておりません。

以上です。

議長（秦 眞治君） 次に、通告、第29番、野並享子君。

29番（野並享子君） 議第78号平成17年度野洲市一般会計補正予算について質問をいたします。

東海道新幹線設置工事促進事業費負担金の債務負担行為の補正であります。総額2億6,900万円を平成17年度から24年度まで毎年負担することになっています。これまでも新幹線栗東新駅については質問をしてきました。市長は湖南の市に将来必要だと答弁してきましたが、市民の圧倒的多数の人が必要ないと言っておられます。栗東新駅ができて乗らない、米原や京都まで行くと言われます。経済波及効果と深度化調査が出されていますが、この根拠になっている数字は大津市からの乗降客が過大見積もりされています。野洲市民でさえ京都まで行くと言われているのに、大津市が全体の4分の1を利用する数字は根拠がありません。1日7,000人の乗降客という大もとが崩れています。この点の説明を求めます。

この乗降客を基本に経済波及効果が出されています。建設の波及効果の876億円は、乗降客に関係なく建設が行われますので確実でしょう。しかし、その後の人口増に伴う住宅建設、またオフィス建設、工場建設の5,550億円については現実的ではありません。工場はIBMのように海外に移っていったのが現実です。また少子化の現状では、駅ができたところで人口増を1.51倍にするのは無理があります。富士市や掛川市を基本にされていますが、名古屋に近い岐阜羽島では新幹線駅による人口増は見込めているでしょうか。いまだに駅周辺はがらんとしています。岐阜市の方も大垣市の方も、名古屋に行く方が早い、便利と言われています。京都駅まで在来線で20数分の距離の栗東新駅で、

経済波及効果の5,550億円というのは、これも根拠がないのではないのでしょうか。この点の説明を求めます。

促進協議会が最近出しましたピラに、新駅を利用する人は多くないという返答に対して、新駅は便利さだけではなく滋賀県全体が発展していくための駅と答えています。県全体の発展とはいったい何なのでしょう。駅を利用する人は少なくてもよい、乗降客が少なくても、人口増に伴う住宅建設、オフィス建設、工場建設など見込めないわけでありませう。県全体の発展とは何なのでしょう、説明を求めます。

自治体にとって税収はふえるし、地域が発展し潤うということも答えています。新駅周辺の固定資産税は栗東市に入ります。しかし、これも区画整理事業や新駅関連の事業費に見合うだけの税収になるかどうか栗東市の中でも問題になっています。野洲市にとっての経済波及効果や、地域が発展し潤うという根拠を明らかにしていただきたいと思ひます。

以上です。

議長（秦 眞治君） 総務部長。

総務部長（山中清嗣君） 野並議員のご質問にお答えいたします。

まず1点目の、利用調査の問題でございますが、開業時で7,480人の利用者数の推計数値は、ターミナル調査における滋賀県関連の米原駅と京都駅の利用者を、人口及び観光入り込み客データを補正した各地域の新幹線利用者数に、新幹線駅選択モデルで得られた新幹線新駅の選択確率を乗じて求めたものであり、妥当であると考えております。

2点目の経済波及効果でございますけれども、深度化調査におきまして野並議員が言われるように、新駅建設効果として約876億円、そして観光客の増加また人口の増加、これに伴います観光消費効果が約217億円、そして消費生産効果が約3,553億円、そして税収効果が平成32年時点でございますけれども113億円ということで、地域全体で約5,550億円の数値の根拠になっております。ちなみに、波及効果全体といたしましては6,426億円という調査結果になります。

続きまして3点目の、県全体の発展についてのご質問でございますが、新駅の設置は滋賀県が飛躍するための新たな資本となり、新たなビジネスチャンスを生み出すものであります。また、人や情報の交流、ものづくりと共に、観光や物流などの第三次産業が興り、研究開発する大学や研究機関のさらなる集積を呼び込むなど、新しい滋賀の時代を根底から支える社会インフラとなるものと考えております。こういう中で滋賀県全体が今後生き延びるために、やはりこういう選択を用い展開をしていくのは正しいと認識しております。

そして4点目の、野洲市にとっての経済波及効果でございますが、前回の議会等々で深度化調査の結果を説明させていただいておりますけども、県全体また湖南地域全体の中での波及効果ということで、市における波及効果が具体的には出ていないのは調査結果でございます。

以上、お答えとさせていただきます。

議長（秦 眞治君） 野並享子君。

29番（野並享子君） 今言われましたのは、ほとんどこの深度化の報告書の中身を羅列されただけでありまして、その根拠になる部分の問題に対しては答えておられないというのが現状ではないでしょうか。指摘いたしました乗降客の問題も、これもターミナルでの調査で、ちゃんとそろったものを織り込んでということになってはいますが、もともと、この全体的な人数というのは、京都駅で8,128人、米原駅で6,134人という、この合計を3等分して、それにプラス栗東がもっと乗るだろうということで7,480ということになっているのですが、こんなことあり得ないでしょう。京都の利用者8,128人となっていますが、大津の方々がこちらに来られるというようなことも思えませんし、米原に利用されている6,134人といいますが、湖東から湖北の方の方々のそんな3分の1が栗東に来るということも、これも考えられない。

というようなことで、この部分の根拠となっている部分がペーパー上の統計上といいたいでしょうか、そういう現実とかけ離れた状況ではじいた人数なのですね。これはどこかの駅、掛川や富士という形で、どこかの遠いところに、のぞみやひかりがとまらない、新幹線の駅がないというような、在来線で行けばもう1時間ぐらいかかる、そういうようなところでの数字なのですね。この現実の、本当に20数分で京都駅から、発着の本数ものぞみとひかりだけで130本あるのですよ、京都で。この栗東がひかりで18本しかないのです。このままでは間尺に合いませんからね。こだまに乗って京都か米原でひかりに乗りかえる、東京まで行くのだったら、多分そう思うのですよ。そうしたら、こだまに乗るのではなくて、東京やら遠いところに行こうと思う人はひかりにしか乗らない。18本しかない栗東駅と130本もある京都駅と比べたら、そんな安易に3等分できるような数字ではないのです。だから7,480人という、この根拠そのものが全く根拠になっていない。

今説明されたので全然、皆さん納得できるような答弁と違うでしょう。7,480人の根拠、これが本当なのかどうかということがやっぱり一番の原点なのですよ。それに基づいてすべてはじいていますから。この部分で、もっときっちりとした専門家の方の予想

では、利用客は2,000人程度というような数字がはじかれています。それは現実を見た、この位置、京都と湖南の位置をはじいて乗降客を計算したら、そんな程度にしかならないということになっているのですけども、ここのあたりを本当にきちっと、いや、そんなことないと、7,480人、确实これだけ乗るのだという、もっとしっかりとしたデータ、そういうものが必要なのではないのですか。ここの根拠が崩れて、2億6,900万円ものお金を出すということが本当に納得できるような話なのか、ここの説明をもう一度求めたいと思います。

その次の、人口増に1.51倍ということで、オフィスをつくるとか住宅の建設とか、工場建設ということで5,550億円、これも説明、これをそのままおっしゃっただけですよ。私はこの数字は当然知っての上で、何でこんな数字になるのかと。新幹線を、駅をつくることによって本当に1.5倍の人口増が見込めるのかということですね。岐阜羽島がそれだけ駅周辺が発展したとかというようなものが見えれば納得できる話ですけども、新幹線のこだまを中心とした駅の状況を見ますと、あっちもこっちも、やっぱりそんな夢を描いたようには進んでいませんよね。やはり、調査そのものがすごく、市長は妥当だとおっしゃいますが、妥当でないのです。現実的でないのです。もっと納得できるような話をしていただけませんか。

促進協議会が出したピラで、新たなビジネスチャンスが生まれるとか、第三次産業や大学の誘致、新しい滋賀、それも結局、具体的なところではありませんよね。今滋賀県で大学の誘致の部分は、やはり京都から在来線を使って来られる範囲のところだと思うのです。そういう意味において、今進んできている中で、新幹線ができて、それだけ近くに大都市があるところで大学の誘致がされた駅が存在しているのでしょうか、教えて下さい。

しかも、この経済波及効果の部分にいたしましては、ほとんどが建設・土木の関係ですね。住宅建設、オフィス建設、工場建設ということで5,550億円という状況ですから、経済波及効果というのは建設業者に対する波及効果ですね。滋賀県の全体的な建設の波及効果という状況なのでしょうが、野洲市で負担する2億6,900万円ということに関して、やはり野洲市でこういうだけの経済波及効果が見込めるというような部分を示せないというのは、ここで議論をしているのですから、今この問題を県議会で議論しているのと違うのですよ。野洲市議会で議論をしているのです。そうすると、やはりこれだけのお金を出すのだったら、どれだけ波及効果として野洲市にあるのだろうかというのが当然議論されて当たり前と違いますか。

夢のような話で将来、将来と、わかりませんか。そういうもっと具体的な状況で市民が納得するような問題にならないと、これは県全体の問題ですから市としてはというふうな、そんな無責任なあいまいなことで納得できないでしょう、市民の皆さん。いろんなところにもっともお金を使ってほしいという皆さんの願いがあるのですよ。暮らし、福祉、教育優先に使ってほしい、そういう願いがある中で、いや、この2億6,900万円がそれよりも値打ちのあるものだということを行政として根拠を出さない限り、納得できないでしょう。きちっとした、そういう野洲市議会として今議論をしているのですから、野洲市民に納得できるような話をさせていただきたいと思います。

議長（秦 眞治君） 総務部長。

総務部長（山中清嗣君） 野並議員の再質問にお答えさせていただきます。

先ほどお答えさせていただきましたように、利用者数7,480人は深度化調査において、調査方法におきまして結果を得たものでございまして、この数値、今現在、米原市が1万人の利用客がございまして、同程度のひかり、こだまの運行を計画しておりますので、7,480人は過大な見積もりではない、妥当であると判断しております。

また、人口増につきましては、新幹線の新駅の人口増加率を先進地事例、先ほど議員が言われたのですが、必ずしもすべてじゃないわけですが、富士市、掛川市、安城市などの事例を参照いたしまして、そういう中で1.51押し上げる効果があるという調査結果になっております。この増加率についても、過大な見積もりでないかと判断しております。

そして3点目の、私、先ほどお答えいたしました中で大学の誘致ということで、今、野並議員の方からご質問があったわけでございますけれども、現在湖南地域には大学、また県の研究機関等々がございまして、そういうものがこの新駅ができることによって、さらなる集積を呼び込むという予測というのですか、期待がございまして、その辺で新たにAという大学を誘致するとか、そういうものではなく、今現在湖南地域にある大学また研究機関等がこの新幹線新駅を起爆にしてさらに充実されていく、また集積されていくということでお答えを申し上げます。

そして、先ほどもお答えしましたように、県全体での波及効果ということで調査結果が出ておりますので、野洲市で具体的にということにはお答えできかねるわけでございますけれども、何分にも市といたしましては、この新駅設置が決まってくれば、新駅への交通もまた、そういうものも新駅を活用した形でのまちづくり等々を考えていき、本市にできる限り大きくプラスの効果が出るように努めてまいりたいと考えておりますので、一つよろ

しくお願いいたします。

以上、お答えとさせていただきます。

議長（秦 眞治君） 野並享子君。

29番（野並享子君） 米原が1万人の乗降客と、それは当然でしょう。京都まで何分かかります、あの地域から。京都まで行きませんよ。向こうも遠いですやん。名古屋ですから、次は。米原の位置がどこにあるかということのを思ったら、それが栗東に匹敵するというような、その発想が、位置関係が全然わかっていないのですよね。

市民の皆さんに聞いたって、私、栗東の駅ができれば利用すると言わはる人にお目にかかったことがないのですよ。圧倒的にみんな、そんなわざわざ乗りかえて、乗りかえて、そんな荷物を持って乗りかえてなんていうのは、もう京都駅まで行くと。東京の方に行くのだったら、そのまま米原まで行くとおっしゃいますよ。それだけ栗東の駅というのが利用されにくい。しかも、この県の出した漫画でもそれを認めているでしょう。駅ができて誰も乗りにいかないという話も聞きますよと、よく知っていますわ。在来線からの乗りかえもしにくいそうだし、そうなのです。皆さん、そういうことをみんな思っています。利用する人はそんなに多くないと思います、そうなのです。それでも将来の発展のために、将来の発展のためと、どんな絵がかけられているのかと、今聞いても、大学のさらなる集積を期待でしょう。期待だけですよね。将来の発展、生き延びるために必要とか、本当に栗東駅ができて生き延びるといふうな状況ですか。利用しなければ全然駅前開発だって、そんなのできません。人が乗り降りしないような駅のところに、どこがホテルが来て、ビジネスの会社がオフィスをつくり、人が乗り降りしてはじめて、それが成り立つのでしょうか。

この過大な見積もりの7,480人、乗降客ですから、乗ると降りるとです。ということは、1人ツー・カウントしたのですよ。だから現実には3,740人なのです。で、67本です、このあれをみますとね。ひかり、こだま、上りで33本、下りで34本、67本でしょう。67で割ったら、1本の電車で56人なのです。1時間に1本の電車しか走らない、それに56人なのです。10年後も書いていますけども、10年後はこの深度化調査で8,938人、これはツー・カウントですから4,469人です。で、67本で割ったら66人です。この深度化調査の中で4分の1は天津を見込んでいるのです。これよりも少なくなるのは当たり前です、天津なんかほとんど乗りませんよ。1本あたりそれだけの人数しか利用しないようなところで、駅前の開発が本当に進み、将来

のまちづくりを新幹線栗東駅を中心に進むかといったら、もう先が見えていますでしょう、この数字だけでも。それだけの位置関係、この本数だけの、過大な人数だと言っている7,480人でさえも見えている数字だと思うのですが。専門家の言いますような2,000人ぐらいだったら、どうなります。描いてはる絵とは全然違うような状況になるの違いますか。だから栗東の市議会の中で、投資する税収に対しての回収がどうなのかということが問題になるのです。

動く歩道をつくりとか書いていますけども、動く歩道だって37億するのですよ。区画整理事業も駅前のA地区で296億、積水側の西側の区画整理で205億、これは移転補償は含んでいませんからね。こういうふうなことが本当に、税金をこれだけ投入して税収で返ってくるのかということが問題になっているような中で、この1日の乗降客の状況を考えますと、将来の県全体を本当に新たなビジネスチャンスとか、いろいろおっしゃいますが、根拠になるような状況がないのです。

1本あたり56人ぐらいが乗るとか降りるとかというような状況で、まち、どう思います。野洲駅でさえも、もっとたくさんの方が乗り降りしていますよ。駅前にどんどんと発展していますか。在来線と比べてみても、このお金の出し方は、JRがもっと必要と思うのだったらJRが負担すべきですよ。この部分に関して、本当にもう少しきちっとした、市議会での議論ですから、答弁求めたいと思います。

議長（秦 眞治君） 総務部長。

総務部長（山中清嗣君） 野並議員の再々質問にお答えさせていただきます。

先ほど再質問でお答えさせていただきましたのは、米原駅で1万人であり、新駅の深度化調査の予測では7,480人ということで、これが過大な数ではないかというご指摘でございましたので、米原駅と同じ本数のひかり、こだまがとまりますので、7,480人については過大ではない、妥当であると評価しているということでお答えさせていただきました。

そして、野並議員は乗降客7,480人にしても少ないと。その中で、この少ない利用者で地域の発展がということを危惧されてのご質問でございますけども、先ほども申しましたように、県におきまして、一つの県南部地域の玄関口としてこの新駅を位置付けし、今後それぞれの関係市町がこの駅を踏まえてまちづくりを行っていくという中で進めていくということでございますので、ここに出されました波及効果等々も妥当な数値であるという中で進めてまいりたいと思いますので、ご理解のほどよろしく願いいたします。

以上、お答えとさせていただきます。

議長（秦 眞治君） 次に、通告、第14番、小島進君。

14番（小島 進君） ただいま議題となっております平成17年度野洲市一般会計補正予算（第2号）について議案質疑をいたします。

今回の議第78号は、発展する湖南地域の中核施設として新幹線新駅栗東駅が建設されるのに対し、工事費の負担をしようと提案されているものです。新駅の必要性については、以前から訴えたことがやっと実現に向け、一步前進したとの思いであります。現在、市民の間でも新駅の是非について議論がありますが、将来の野洲市の発展を考えれば絶対に必要な施設であり、長い間の懸案でもあったものですから、ぜひこのチャンスを新市発展の糸口にするよう生かしていかなければなりません。

そこで、提案には賛成する立場ではありますが、お尋ねいたします。新駅の利用見込み人員は岐阜羽島並みの約6,000人が予想されていますが、岐阜羽島と比較した湖南の地域発展のポテンシャルの高さから、さらに多くの利用促進が期待されます。今後の利用増加予想についてはどのようにお考えですか、お尋ねします。

また、新駅利用の促進には、使いやすい駅施設と交通アクセスの強化が必要です。湖南地域の玄関口であれば、湖南地域のどの町からでも新駅にスムーズに接続できることが重要で、JR琵琶湖線の野洲 - 草津間の複々線化並びに国道8号線の渋滞解消は、新駅開業と同時に果たさなければならない課題です。促進協議会での議論並びに栗東市の現在までの取り組みについてお伺いします。よろしくお願ひします。

議長（秦 眞治君） 市長。

市長（山崎甚右衛門君） 小島議員さんの質疑で、1点目の利用増の予測については総務部長からお答えを申し上げますが、いわゆる駅施設のアクセスの強化が必要であると、こういうことでございまして、おっしゃるとおり湖南地域の玄関口であるという認識のもとに、新駅にスムーズに接続できることが重要であると。そういうことから、先ほどからもいろいろとご意見がありますように、野洲市から利用するについてのいろんな面でのアクセスが必要でございます。

まず、冒頭から申し上げますとおり、やっぱり琵琶湖線の野洲 - 草津間の複々線を何としても、この事業と並行して取り組んでもらう。これは関係機関、JR西日本を含んで、滋賀県あるいは湖南の4市の中でもお取り組みをいただきながら、何としても実現に向けていきたいという思いをいたしておりますし、また国道8号線の渋滞の緩和につき

ましても、新駅開業と同時にますますこの道が複雑、また渋滞が繰り返されるのではないかという思いもいたしておりますので、栗東市を中心に、この問題についても進めていきたいという思いでございます。

今後の促進協議会での議論なのですが、申し上げまして非常に失礼な言い方になるのですが、今までは今問題になっております建設負担金をどうするのかということが第一の議論でございまして、この議論がおさまらない以上、そのアクセス関係、いろんな関係については議題に上げることができなかつたというのが実態でございます。だから、これからはそうした問題を含んで、栗東駅を中心にどうやっていくのか、どういうまちづくりをしていくのかというのは大きな課題でございますから、これだけの多額の費用を負担する以上は、やはりそれなりのメリットがなければならないということも重々わかっておりますので、そうしたことをこの促進協議会での議論の場にしていきたいと、こういう思いをいたしておりますので、ご理解を賜りたいと思います。

以上でございます。

議長（秦 眞治君） 総務部長。

総務部長（山中清嗣君） 小島議員の1点目の、今後の利用増加予測についてのご質問でございますが、先ほど野並議員にお答えしましたように、開業時、大体7,480人、そして10年後に8,938人を深度化調査では見込んでおります。今市長が答弁を申しましたように、また本市からの交通の国8バイパス、また大津湖南幹線等々の完成を見ますと交通アクセスがもっと便利になりまして、自家用車等でご利用されるということが出てくると思いますので、この10年後の8,938人を過大な見積もりでないと、このようにとらえております。

以上、お答えとさせていただきます。

議長（秦 眞治君） 小島進君。

14番（小島 進君） 今、ご回答をいただいたのですが、今後の利用増加予測につきましては、それで結構でございます。あと、2点目の国8バイパス、この新幹線栗東駅が24年に開業ですか、それに向けてやっぱり合わせていただきたいと。前々回の一般質問でも、国8バイパスは10何年かかると。やはり、この栗東駅周辺からの近隣ですと、野洲から今の栗東新幹線駅へ行くのには、誰も電車に乗って行かないと思います。やはり車だと思います。そのためには、やっぱり国8バイパスを何とか一日も早く解消していただきたいというお願いでございます。それにつきましては、栗東市を含む近隣の関係する

市町での促進協議会を立てていただいて、そういう協議をしていただきたいと思います。担当の方はどう思われますか、よろしくお願いします。

議長（秦 眞治君） 都市建設部長。

都市建設部長（北口 守君） 小島議員さんの再質問ということで、国道8号バイパスということでございますので、私の方からと思うのですが、何分促進協の関係につきましては私も入らせていただいておりますので、今現状の国道8号バイパスの取り組みということでありましたら、私の方からお答えをさせていただきます。

現状はご承知のとおり、今測量の立ち入りということで地元の方に入らせていただいておりますが、何分もう自治会に対してご承諾をいただいております。これも新幹線新駅の期限が決まりましたので、これに合わせて促進をするべきだというふうに重々承知をしておりますので、今後とも自治会等に働きを強化いたしまして進めていきたいなというふうに考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

議長（秦 眞治君） 小島進君。

14番（小島 進君） 今、部長の方から一応回答をいただいたのですが、新駅と国8は切り離した方がいいのですが、やっぱり国8は切り離せない。こう話を聞いてみますと、やっぱり栗東市はまだ出庭、中、宅屋ですか、そこでもまだ自治会単位に話をされた程度しか聞いておりません。その話をできるだけ詰めていただくために栗東市等がそういう促進協議会を早くやって、話を詰めていただきたいと思います。それが三上学区の野洲甲西線の交通渋滞の解消にもなると思いますが、その点をよく考えていただきまして、よろしくお願いいたします。

以上、終わります。

議長（秦 眞治君） 以上で、議案に対する質疑を終結いたします。

お諮りいたします。

ただいま議題となっております議第78号は、会議規則第39条第2項の規定により、委員会付託を省略いたしたいと思っております。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（秦 眞治君） ご異議なしと認めます。よって、議第78号は委員会付託を省略することに決定いたしました。

次に、議第78号に対する討論を行います。

討論通告書が提出されておりますので、これを許します。

まず、第28番、川口東洋君。

28番（川口東洋君） 28番、川口東洋であります。

ただいま議題となっております議第78号平成17年度野洲市一般会計補正予算（第2号）について、原案に対し賛成の立場で討論をいたします。

今回の東海道新幹線新駅設置工事促進事業費負担金についての債務負担行為補正は、今話題となっています栗東市下鉤地先での新駅設置に対して、その工事費用の地元負担調整について、促進協議会構成市町としての合意内容に基づく金額を本市として負担するものであり、さまざまの議論はあろうと思われませんが、私ども野洲市民ネットワークとしては妥当なものと認め、賛成するものであります。が、そもそも東海道新幹線新駅の設置位置は湖南地域と湖東地域とで綱引きが行われた末に当該地に決定を見たものであります。この間の経緯については細かく触れませんが、本市をまたぐ、あるいは本市域の中でも巷間うわさに上ったものであります。そういった意味では、本市としては、あぜに上がって知らぬ顔では済まされない課題でもあろうと考えるものであります。

今回、全国的にも人口の伸びが著しい湖南の地にあって、東海道新幹線沿線の背景人口を考えると、80万8,500人、事業所数3万3,300を数える地域としては、既設の各駅に比して、利用についても断定的なことは言えませんが、悲観的な要素とはならないものと考えられます。ただ、今回の新駅設置にあたっての総工事費が膨大な金額に上ることは遺憾の限りであります。これは地元の気概がそれだけ設置希望を示すものとして受けとめたいと考えるものであります。当該栗東市でも拮抗した議論の中でようやく出された結論と聞いております。その分、私どもの血税が県費負担という形で使われることは許されないところであります。しかし、県議会の結論として決定されたものならば、残念ではあります。やむを得ないものとして受けとめなければなりません。

そこで、野洲市としての今回の補正利用に関し、市長に今後の対応として求めておきたい事項をしっかりと実行していただく、その上で私どもは賛成する、そういうことを述べたい。

まず、JRに対しましては、東海道線、琵琶湖線の複々線化実現へのさらなる努力を、栗東市に対しましては国道8号バイパスの早期開通に全力を挙げる、複々線化に向けた用地確保に早期着手すること、新駅設置に十分な駐車スペースを確保すること、このことが、私ども野洲市民が新駅利用の利便性の向上に大きな役割を果たすことと考えます。そして、さらに県に対しましては、今申し上げました事項を早期実現するために、理解を

示して適切な応援姿勢を示し、特例を行わせるようしっかりと求めておきたい、以上を市長に注文付けいたしまして、私どもの賛成討論といたします。

ちなみに、手を挙げておけば本市内での設置も不可能ではなかったと言われる中で、至近距離内の新駅設置となり、応分負担としては本市にとって大きく不利とは言い切れないものであろうと判断をいたします。いずれにいたしましても、投資効果を目指して、本市の市民生活の向上に向けて波及効果を上げる手だてをしっかりと実施されるよう求めるものであります。

以上。

議長（秦 眞治君） 次に、通告、第7番、三和郁子君。

7番（三和郁子君） 7番、三和郁子でございます。

議員の皆さん、ぜひ、お一人おひとりの気持ちで、今回のこの議案に対して真摯に判断していただきたいことを、まずお願い申し上げます。

今、野洲市では461億円、一般・特別会計合わせて借金がございます。合併特例債も今、少しずつその借金もふえていっております。また今回、この2億6,900万円、これは債務負担をしながら10年にわたって借金として返済していくものです。これ以上野洲市が借金を抱えて、未来ある子どもたちのために今私たち大人がしなければならないこと、これは少しでも借金を割いて有効なところ、必要なところへ使っていく、これが私たち野洲市議会議員の役目だと私は考えながら、今回、反対討論をさせていただきます。

本議案は県が示す負担金2億6,900万円の100%を補正予算提案されていることに対し、以下の論点において反対します。

第1点、市民が2億6,900万円の根拠や妥当性について十分な説明を受けているとは思いません。第2点、大津市の負担拒否、甲賀市の負担減額に対し、不足する負担金の処理について明確化されておらず、将来的に野洲市への付加が懸念される。第3点、甲賀市の負担金減額容認は、その根拠に正当性と妥当性が認められた結果です。裏を返せば、野洲市が減額に値する根拠の発見、説明ができない理由はなく、また減額要求が認められることに異論はないものと確信できます。

この6月3日付の新聞には出ておりますが、「大津を除く関係市長合意」というふうな見出しで出ております。甲賀は県案より減額、東海道新幹線びわこ栗東駅（仮称）の建設費の負担割合を話し合う。駅設置促進協議会の会議が6月2日草津市のホテルで開かれ、大津市を除く関係市長と県が負担額について合意した。会議後に会見した合意した額は、県

が116億9,700万円、栗東市94億8,700万円(寄附金10億円を含む)、草津市5億3,800万円、守山市3億7,700万円、甲賀市2億5,000万円、野洲市2億6,900万円、湖南市3億円。栗東市は、この他に駅前道路整備費として約6億円も負担する。これまで県が示してきた負担案から甲賀市だけが減額された。県案では4億2,500万円だったが、同市が減額を求めて自ら提示した額を県と関係市が認めた形。この結果不足が生じた1億7,500万円について、今後促進協議会としてどうとらまえるか検討すると共に、JR東海に対してもこの分の工事費の減額などを要請するという会見がされました。この観点から、野洲市はその検証及び減額要求の作業を怠っていると判断します。

第4点、減額後の負担金額2億5,000万円の甲賀市を上回る野洲市の負担金2億6,900万円は、もはやその正当性・妥当性において根拠を失い、市民に申し開きができないものになっています。第5点、本議案に関わる負担金に関しては、第2点、第3点、第4点の趣旨を踏まえた後、議案の再提案が妥当と判断いたします。

前段でも申し上げましたが、議員の皆様、ぜひこれ以上私たち野洲市、未来ある子どもたちのために借金をこのままふやすことなく、皆さんのお気持ち、一人ひとりのお気持ちで、この議案に対して参加させていただくことを切にお願い申し上げまして、以上の5点により反対討論をさせていただきます。

議長(秦 眞治君) 次に、第3番、太田秀司君。

3番(太田秀司君) 第3番、太田秀司です。

平成17年度野洲市一般会計補正予算(第2号)これに対しまして反対討論をさせていただきます。

まず、我々野洲市議会議員、これは野洲市民の代表であります。びわこ栗東駅設置促進協議会等で幾ら正当化されましようとも、当の栗東市民でさえ反対の署名が1万数千人もありません。これを野洲市の方で置きかえてみましたら、はるかに反対の住民が多くなるのは火を見るよりも明らかであります。市長は先を見越しての投資だとおっしゃいますが、私自身再度、平成16年3月に出されました促進協議会の深度化調査の報告書、これを読み返してみました。これを読み返したところ、すべて予測と推測の域を出ておりません。

100%これは确实だという文面はどこにも見当たりません。中でも、野洲市民の利用者数が2010年で376名という根拠、これはどこから出てきたものなのか、疑うところがあります。そんないいかげんな話に貴重な税金を使うなど、許されるものではありません。

ん。

さらに、経済的波及効果につきましても、人が集まらないそんな駅にどういう発展を望めるのか、またこの野洲市までそういう波及的効果が及ぶなどとは考えにくいところであり、現に個々の市民はもちろん、ここにお集まりの市職員の方々、または一部の議員各位に問いかけましても、進んで栗東新駅を利用しようなんて答えをついぞ聞いたことがありません。それはもちろんそうだと思います。1時間にひかりやこだまが各1本しかとまらないわ、また在来線の駅から直接簡単に行けない、そんな駅を誰が利用するというのか。誰が考えてもわかろうと思います。

ここにお集まりの我々、もちろん皆さん、市民の大切な税金を我々は預かっています。これを市民の意思に沿って運用するのが我々市議会議員の務めであり、今世間でも言われている公共事業の見直しと削減、これを今こそ勇気を持って市長の大英断にご期待し、さらに議員各位にも、本当に市民が求めているものは何なのか、ここら辺を会派を超えてお考えいただき、野洲市の議員ならば野洲市民の立場に立った決断を今求め、反対討論いたします。

以上です。

議長（秦 眞治君） 次に、通告、第26番、鈴木市朗君。

26番（鈴木市朗君） 26番、鈴木です。

ただいま議題となっております平成17年度野洲市一般会計補正予算（第2号）について、反対討論を申し上げます。

私どもコミュネット野洲3人は反対の立場をとっております。今、三和議員あるいは太田議員から反対討論の趣旨が説明されました。この間の6月議会で税の改正がございました。上位法における改正といえども、給与所得者にとって税率がぐっと上がってまいります。そしてまた、老人、年金生活者、その方々にも波及をしましてまいっております。そして、私どもこの野洲市におきまして、直接生活と関わりのある下水道料金の値上げも今出ております。そうしたさまざまな要素が含まれている中、今日この新幹線の駅の経費の負担、これが果たして私ども市民の本当の福祉の向上につながるものであろうかということを思ったときに、私は決して新幹線新駅は住民の福祉の向上にはつながらないという思いを持っております。

議案質疑の中でも明確な回答を得られません。そうした中で、強行に進めていこうとするこの姿勢、皆さんはいったいどう思われます。本日1日限りの会議でもってこの問題を

解決していくという、短時間での決め事。本当にこのような姿勢でいいのだろうかとは私は今実感しております。議員の皆さんもさまざまなお考えがあろうかと思いますが、会派を超えて、やはり野洲市民約5万人の福祉の向上、また少子化対策あるいは高齢化対策に向かって、こうしたお金があるならば、そういう目的に使用していくのが本来我々議員に課せられた大きな使命だと私は思っております。したがって、この17年度野洲市一般会計補正予算につきましては反対をいたします。

そして最後につけ加えますが、理事者の皆さんも私たちの質疑において、もう少し勉強をして明確な回答をされるよう望んで、反対討論といたします。

以上。

議長（秦 眞治君） 次に、第29番、野並享子君。

29番(野並享子君) 議第78号平成17年度野洲市一般会計補正予算につきまして、日本共産党議員団を代表いたしまして反対討論を行います。

平成14年7月に東海道新幹線びわこ栗東駅設置促進協議会から、「新幹線新駅整備の波及効果と地域整備戦略に関する報告書」が出されました。その当時、1日利用者数8,500人から1万人と予測しましたが、全体的に過大な利用を予測しており、この調査報告の根拠に疑問視する声が圧倒的でした。

再度、平成16年3月付の東海道新幹線びわこ栗東駅設置促進協議会から新幹線新駅整備の波及効果と地域整備戦略の深度化調査が出されました。1日の利用者は、2010年開業時には7,480人と下方修正しました。しかし、その数字でさえ大津市が1,606人となっており、その多くは観光で1,446人利用することになっています。その根拠とされているのが、新富士駅や掛川駅開設による宿泊客が2倍になった根拠が出されていますが、条件が違います。在来線で20数分のところに、のぞみもとまる京都があります。まして大津から京都などは在来線で9分です。時間短縮からいっても、在来線と交差していない栗東新駅におり立ったとき、目的地まで車で移動しなければなりません。しかも、湖南地域の停滞はひどいものです。観光客の予想さえ地域の条件を反映していません。

さらに市民に聞いても、年数回しか利用しないけれど、草津線に乗りかえ、シャトルバスに乗って栗東新駅を利用するより、京都や米原まで行くという方がほとんどです。市民が利用しない、必要ないところへ負担金を出すというのは税金の無駄遣いです。2億6,900万円の負担をすることについて、野洲市民の合意を得ていません。

促進協議会のニュースでは、便利さだけが目的でなく、将来の発展のために必要と言っ

ていますが、2面5線のため約100億円も高ついています。JR東海にとって、のぞみ新車両開発により、増便とスピードアップのためにひかりやこだまを追い越す必要があるため、待避駅や留置駅がどうしても必要、そのために新駅が必要なのであります。だから2面5線にしているのです。必要なのはJR東海であり、JRに負担を求めるべきです。

請願駅といいますが、JRの条件は負担金の合意と区画整理事業仮換地の合意が条件になっています。しかし地権者の中には反対者もいて、区画整理事業について合意されていません。また大津市は促進協議会から脱退し、負担金は出さないと言っています。甲賀市は県が示した額は多いと減額しています。負担金についても足並みがそろっていません。

栗東市におきましては、この間3回の署名活動が行われ、約1万6,000人の住民から負担金出すな直接請求署名が提出されました。また栗東市議会においては、債務負担行為の議決も、20人の議員のうち半数の10人しか賛成していない状況です。地元栗東市においても、駅舎負担金240億円の支出に関しては異議が出されています。同時に、この野洲市においても約1,600人の市民から負担金出すな請願書が提出され、負担に対する市民の批判は強いものがあります。

これまで市長は、この負担問題は市民に説明責任があると言ってきました。しかしこの間、市民に納得できるような説明もなく、それどころか市民は一層、請願駅としての負担に疑問を持っているのではないのでしょうか。このような状況であるにもかかわらず、年内に工事協定を結ぶことが出されており、すべての面から住民合意がありません。この間、市民には国保税や介護保険料など、負担を強化してきました。一方で、無駄で必要のない栗東新駅の負担金の支出は市民は求めておりません。市民の大切な税金は暮らし、福祉、教育優先に使うべきです。よって本議案に反対いたします。

議長（秦 眞治君） 次に、通告、第25番、河野司君。

25番（河野 司君） 25番、河野司でございます。

ただいま議題となっております議第78号平成17年度野洲市一般会計補正予算について、賛成の立場で討論を行います。

東海道新幹線仮称びわこ栗東駅につきましては、駅設置に向けた促進協議会が滋賀県と関係3市11町で組織されて以来、20年近くが経過し、去る平成14年4月にはJR東海との基本協定が締結されたところでございます。そして、JR東海との工事協定の締結への前提条件でもございます工事費の確保に係る債務負担行為の議案も、設置市でございます栗東市、そして滋賀県をはじめ草津市、守山市でも可決された状況でございます。

皆様ご承知のように、県南部地域は湖南行政組合を設置するなど、従来から行政の結び付きが大変強い地域でございます。そこで、本市にとりましては同一の生活圈域ともされる草津、守山、栗東市そして本市の4市域の懸案事業でございますただいまの新幹線新駅の設置が今や現実のものになろうとしているところでございます。

今の時代、国の最重要課題でございます少子高齢化が全国的に進行し、そして人口が減少していく中で、この湖南地域は現在も急速に発展を続け、今後も人口がふえ続けていくという、そのような予想のされる、全国でも数少ない元気な地域でございます。この元気な地域である湖南地域と全国主要都市、主に名古屋圏でございますけれども、それらがダイレクトにつながることになりまして、新駅を中核としたまちづくりの推進により定住人口の増加、企業活動の活発化による就労人口の増加や観光客の増加と、これらによる大きな経済波及効果が期待されます。もちろんのこと、隣接する本市においてもその効果が波及するものと考えられます。

新駅を核とした新たなまちづくりの中で、新駅へのアクセス整備として、野洲市の課題でございますJR琵琶湖線草津駅から複々線化の実現、そして国道8号野洲栗東バイパス及び大津湖南幹線道路整備など、野洲市の課題も多くあります。それらの早期実現によりますところの我が野洲市の活性化も望めることが大でございますして、この地域の将来のために設置されます新駅は極めて必要であると考えられます。将来を見据えた湖南地域のまちづくりの観点から、議第78号一般会計補正予算に賛成するものでございます。

以上です。

議長（秦 眞治君） 第5番、田中良隆君。

5番（田中良隆君） 議長のお許しを得ましたので、賛成討論を行います。

地方を取り巻く環境も分権型社会の進展に合わせて大きく変わりつつあり、それぞれの地域が自らの知恵と努力によって、その地域の持つ特性をいかにして価値あるものにしていくかが求められております。野洲市におきましても、長引く不況に伴う税収の減少と共に、三位一体改革による徹底した見直しなど、財政運営は極めて厳しい状況に直面しております。この難局を乗り越え、健全な財政運営のもとに住民サービスの向上を図る必要があることは言うまでもございません。

しかし一方で、20年、30年、あるいは50年と、将来のことを考え、今の野洲市だけの小さな枠組みだけにとらわれることなく、湖南地域の発展のために今必要な投資を行うということは、次の世代に向けた私たちの責務と考えます。新幹線は多くの人と情報を

運び、そしてビジネスチャンスをはじめとするさまざまな出会いのチャンスをもたらす手段でもあります。特に東海道新幹線は、今日まで毎日35万人もの人々を運ぶ日本の大動脈として、在来線はもとより、幾つかの新幹線の中でも特に社会的、経済的に計り知れない大きな影響力を持つものであります。既にその新幹線の停車駅は県の北部、米原駅にあります。湖南地域は人口が増加し続ける地域であることや、あるいは製造業が多く集まり、琵琶湖をはじめとする観光資源に恵まれていること、加えて近年、大学が集積していることなどから考えますと、湖南地域に停車駅があつてこそ、その利便性を享受し湖南地域の特性を十分に発揮できるものと考えられるものであります。

新駅の設置は、観光客の誘客による交流や企業立地、あるいは野洲市民にとりましても雇用の拡大など、さまざまな経済波及効果を湖南地域を中心に永続的にもたらすものと確信します。たちまち今の損得勘定だけではなく、我々の子どもの代、孫の代、あるいはひ孫の代、そういう先まで考え合わせ、私は議第78号一般会計補正予算（第2号）に賛成するものでございます。

以上です。

議長（秦 眞治君） 以上で討論を終結いたします。

これより採決いたします。

お諮りいたします。

本案は原案のとおり可決することに賛成の方の起立を求めます。

（多数起立）

議長（秦 眞治君） ご着席願います。起立多数であります。

よって、議第78号平成17年度野洲市一般会計補正予算（第2号）は原案のとおり可決されました。

以上で、本臨時会に付議されました案件の審議は全部終了いたしました。

これをもちまして、平成17年第4回野洲市議会臨時会を閉会いたします。

ご苦労さまでございました。（午後2時23分 閉会）

野洲市議会会議規則第120条の規定により下記に署名する。

平成17年8月1日

野洲市議会議長 秦 眞 治

署 名 議 員 梶 山 幾 世

署 名 議 員 三 和 郁 子